



岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第648集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第648集

伽羅之御所跡第22・23次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

伽羅之御所跡第22・
23次発掘調査報告書

2016

2016

岩手県県南広域振興局土木部一関土木センター
(公財)岩手県文化振興事業団

「公財(公財)岩手県文化振興事業団」



伽羅之御所跡第22・23次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査







序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターでは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業に関連して、平成25年度に発掘調査された伽羅之御所跡第22次調査と平成26年度に発掘調査された伽羅之御所跡第23次調査の成果をまとめたものです。今回の調査により、伽羅之御所跡が堀跡によって囲まれていたこと、隣接する無量光院跡とは一体的に整備されていた可能性が高いことが明かになりました。これは極めて重要な発見といえます。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました県南広域振興局土木部、平泉町教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝の意を表します。

平成28年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 菅野洋樹



例　　言

1. 本報告書は岩手県西磐井郡平泉町平泉字伽羅楽地内他に所在する伽羅之御所跡第22・23次調査の発掘調査成果を収録したものである。
2. 上記2次の調査は、一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と県南広域振興局土木部一関土木センターとの協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録される各遺跡番号と遺跡略号は次のとおりである。
伽羅之御所跡第22次調査：遺跡番号N E 76 - 1029、遺跡略号 K G - 13 - 22
伽羅之御所跡第23次調査：遺跡番号N E 76 - 1029、遺跡略号 K G - 14 - 23
4. 発掘調査の期間、調査面積、担当者は次のとおりである。
伽羅之御所跡第22次調査 平成25年4月10日～6月5日、280 m²
杉沢昭太郎・白戸このみ・佐藤奈津季
伽羅之御所跡第23次調査 平成26年5月16日～10月31日 2240 m²
杉沢昭太郎・白戸このみ
5. 室内整理の期間・担当者は次のとおりである。夏場あり
伽羅之御所跡第22次調査 平成25年7月1日～平成25年7月23日、
平成25年12月1日～平成26年3月31日
整理担当：杉沢昭太郎
伽羅之御所跡第23次調査 平成26年12月1日～平成27年3月31日、
整理担当：杉沢昭太郎
6. 野外調査における基準点測量・写真撮影にあたっては次の機関に委託した。
基準点測量： 株式会社一測設計 空中写真撮影：東邦航空株式会社
7. 遺物の分析・鑑定にあたっては次の機関に委託した。
年代測定：株式会社アーチ・アンド・アーチ
8. 発掘・整理・報告にあたっては次の方面に御指導・ご協力いただいた（順不同・敬称略）。
県南広域振興局土木部一関土木センター、平泉町教育委員会、岩手県教育委員会、岩手大学
9. 本報告書の執筆は、I章の調査に至る経過は、県南広域振興局土木部に原稿を依頼した。II～V・VI章は杉沢が執筆し、白戸が校正した。報告書の編集・校正は杉沢が行った。
10. 本遺跡の調査成果は、先に、「現地公開資料」（平成25・26年）、「平成25年度発掘調査報告書」（岩文振第630集）「平成26年度発掘調査報告書」（岩文振第647集）に発表しているが、本書の内容が優先するものである。
11. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。



目 次

I 調査に至る経過.....	1
II 遺跡の立地と環境	
1 遺跡の位置.....	2
2 地形、地質.....	3
3 歴史的環境と周辺の遺跡.....	4
III 調査・整理の方法.....	6
IV 伽羅之御所跡第22次調査	
1 概要.....	12
2 基本層序.....	12
3 検出遺構（堀跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、柵列跡、柱穴）.....	12
4 出土遺物（概要、かわらけ、陶磁器、瓦、その他）.....	14
V 伽羅之御所跡第23次調査	
1 概要.....	35
2 基本層序.....	35
3 検出遺構（堀跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝跡、塙跡、その他の遺構、柱穴）.....	35
4 出土遺物（概要、かわらけ、陶磁器、その他）.....	38
VI 自然科学分析.....	53
VII 総括（調査のまとめ）.....	56
報告書抄録.....	97
表 目 次	
第1表 周辺遺跡一覧表.....	5
第2表 堀跡、溝跡、柵列跡観察表.....	25
第3表 土坑類観察表.....	25
第4表 柱穴観察表.....	25
第5表 かわらけ観察表.....	27
第6表 陶磁器観察表.....	28
第7表 石器類観察表.....	28
第8表 堀跡、溝跡、塙跡観察表.....	38
第9表 井戸跡、土坑観察表.....	49
第10表 柱穴観察表.....	49
第11表 かわらけ観察表.....	50
第12表 陶磁器観察表.....	51
第13表 羽口観察表.....	52
第14表 木製品観察表.....	52



第15表 金属製品観察表	52	第17表 石器類観察表	52
第16表 錢貨観察表	52		

図 版 目 次

第1図 岩手県図	1	第21図 造構配置図①	29
第2図 平泉町の位置	1	第22図 造構配置図②	30
第3図 遺跡位置図	2	第23図 造構配置図③	31
第4図 遺跡周辺の地形地質分類図	3	第24図 造構配置図④	32
第5図 周辺の遺跡分布図	4	第25図 造構配置図⑤	33
第6図 遺跡地形図と調査区	9	第26図 造構配置図⑥	34
第7図 造構配置図1	10	第27図 基本土層	35
第8図 造構配置図2	11	第28図 堀跡・井戸跡①	39
第9図 平泉略式図	12	第29図 土坑①	40
第10図 基本土層	12	第30図 土坑②	41
第11図 堀跡	15	第31図 溝跡①	42
第12図 握立柱建物跡	16	第32図 溝跡②	43
第13図 土坑	17	第33図 井戸跡②、その他の遺構	44
第14図 横列跡	18	第34図 出土遺物①	45
第15図 溝跡1	19	第35図 出土遺物②	46
第16図 溝跡2	20	第36図 出土遺物③	47
第17図 出土遺物1	21	第37図 出土遺物④	48
第18図 出土遺物2	22	第38図 推定される堀跡の方向	56
第19図 出土遺物3	23	第39図 伽羅御所跡と無量光院跡	57
第20図 出土遺物4	24	第40図 平泉地形図	58

写真図版目次

写真図版 1 平泉(写真上が北)	59	写真図版 20 調査区9・10ほか	78
写真図版 2 平泉遠景、遺跡近景	60	写真図版 21 調査区11～13ほか	79
写真図版 3 1号堀跡検出・断面	61	写真図版 22 調査区14～17	80
写真図版 4 1号堀跡平面	62	写真図版 23 調査区18・2号堀跡	81
写真図版 5 握立柱建物跡、土坑	63	写真図版 24 調査区19・20ほか	82
写真図版 6 土坑、横列跡	64	写真図版 25 調査区20・21ほか	83
写真図版 7 溝跡	65	写真図版 26 調査区22～24ほか	84
写真図版 8 溝跡、横列跡	66	写真図版 27 調査区24、2号堀跡	85
写真図版 9 横列跡	67	写真図版 28 調査区24・25	86
写真図版 10 調査区全景	68	写真図版 29 調査区25・26、粘土探掘跡	87
写真図版 11 出土遺物、現地公開他	69	写真図版 30 調査区26、土坑類ほか	88
写真図版 12 出土遺物1	70	写真図版 31 調査区26、粘土探掘跡	89
写真図版 13 出土遺物2	71	写真図版 32 調査区27・28	90
写真図版 14 出土遺物3	72	写真図版 33 調査区29～31	91
写真図版 15 出土遺物4、調査区現況ほか	73	写真図版 34 調査区32・33	92
写真図版 16 調査区1、2号堀跡	74	写真図版 35 出土遺物①	93
写真図版 17 2号堀跡、調査区2	75	写真図版 36 出土遺物②	94
写真図版 18 調査区2・3	76	写真図版 37 出土遺物③	95
写真図版 19 調査区4～8	77	写真図版 38 出土遺物④	96



I 調査に至る経過

伽羅之御所跡第22・23次調査は、一般県道平泉停車場中尊寺線の電線地中化事業に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本路線は平泉駅と中尊寺を結ぶ平泉町内の主要な観光路線であり、本路線上には世界遺産として登録されている無量院跡を初め多数の遺跡がある。このため、世界遺産にふさわしい景観に配慮した歩車共存道路として整備することを目的として電線地中化事業に着手したものである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、県南広域振興局土木部一閑土木センターから平成22年12月16日付け「岩手県教育委員会に対する埋蔵文化財について」により岩手県教育委員会に対して埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。

協議を受けた岩手県教育委員会は工事に着手するには当該遺跡の発掘調査が必要となる旨を、平成23年1月20日付け教生第1266号「埋蔵文化財に関する協議について(回答)」により回答してきた。

その結果を踏まえて当センターは、岩手県教育委員会の調整を受けて、平成24年6月1日付で公益財团法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、伽羅之御所跡第22・23次調査発掘調査を実施することとなった。

なお、当該事業区域内の埋蔵文化財については、伽羅之御所跡第22・23次調査の調査を行うことになり、平成25年4月1日付で同事業団と契約を締結し、発掘調査を実施した。

岩手県県南広域振興局土木部一閑土木センター



第1図 岩手県図



第2図 平泉町の位置



II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置

伽羅之御所跡のある西磐井郡平泉町は岩手県内陸部の南側、北上盆地の南端近くに位置する。平泉町は北を奥州市、南を一関市に囲まれる本県では最も面積の小さな自治体である。

町内を北上川が南北に流れており、北上川東岸に長島地区、北上川西岸に平泉地区がある。

伽羅之御所跡は北緯 38 度 59 分 30 秒、東経 141 度 7 分 2 秒周辺に位置しており標高は 28 ~ 29 m ほどである。現況は県道（片側 1 車線の舗装道路）と住宅地になっている。遺跡周辺は平泉藤原氏時代の遺跡が濃密に分布し、隣接する無量光院跡は中尊寺、毛越寺、觀自在王院とともに平成 23 年、世界文化遺産に登録されている。



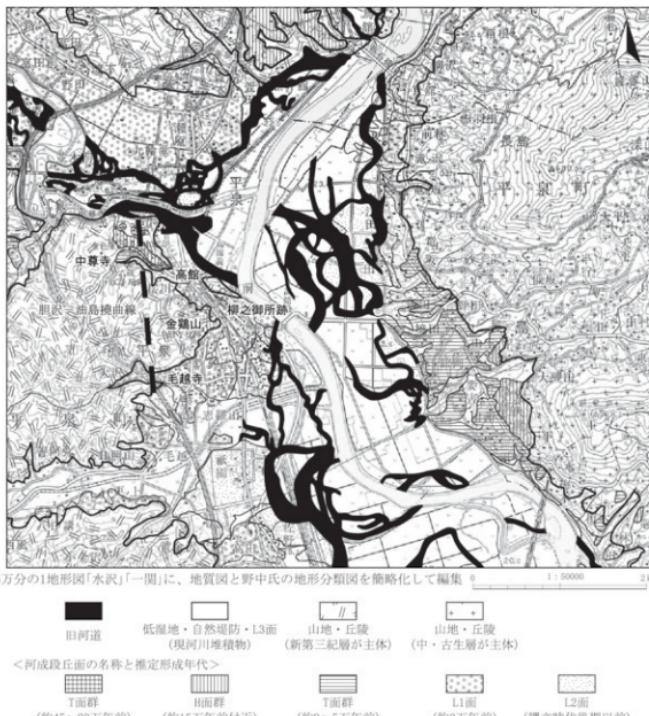
第3図 遺跡位置図



2 地形、地質

ここでは、調査した遺跡がある西磐井郡平泉町及びその周辺の地理的環境について述べる。

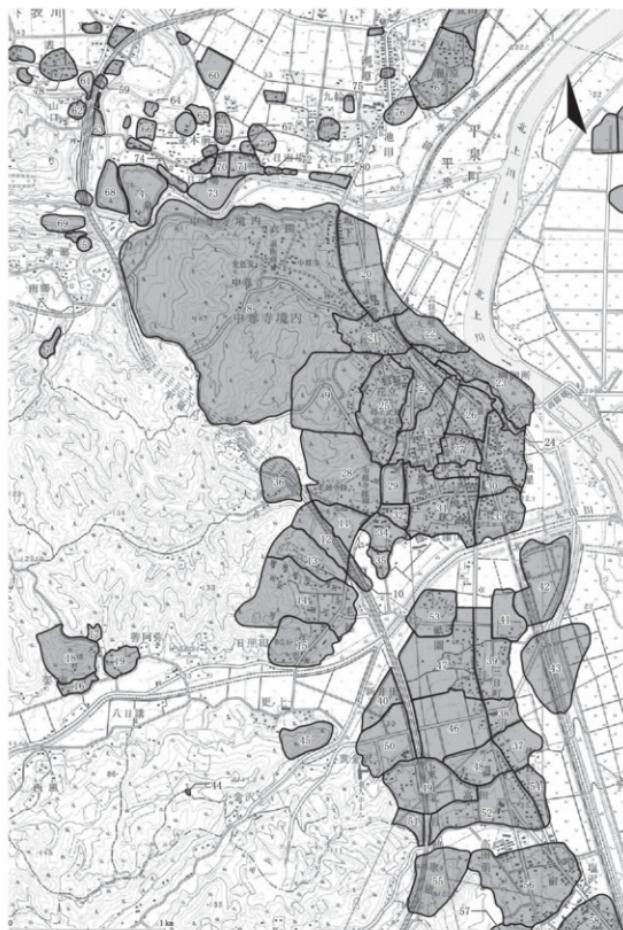
北上川水系の視点から見ると、平泉町は北上川中流域の南端に位置する。平泉町は北上川を挟んだ東西で地形が異なる。北上川の東側は、河岸低地とその東側の山や丘が連なる丘陵地帯から成り、それらの丘陵地帯は第三紀層に相当する北上山系である。河岸低地から丘陵地帯へ急激に標高が高くなるような地形になっている。また西側には奥羽山脈を水源としている太田川と衣川が東に流れ北上川に合流している。これらの河川に沿うように氾濫原と河岸段丘が形成されている。奥羽山系から尾根続きで延びる標高63～110mの山並が北上川近くまで張り出しており、この先端部が中尊寺のある関山や義経堂のある高館山、毛越寺のすぐ背面にある塔山になる。平泉の市街地はこの張り出した山並と北上川、太田川に開まれた約1.5km四方の緩斜面地及び河岸段丘面にある。



第4図 遺跡周辺の地形地質分類図

3 歴史的環境と周辺の遺跡

今回調査した伽羅之御所跡の周辺にある遺跡については第5図及び第1表にまとめた。



第5図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代	所在地	番号	遺跡名	種別	時代	所在地
1	伽羅之御所	城柵跡	平	平泉字伽羅東	41	上野台Ⅰ	散布地	調	平泉字上野台
2	花立Ⅰ	社寺跡・城柵跡	平	平泉字花立	42	上野台Ⅱ	散布地	平・中	平泉字上野台ほか
3	花立Ⅱ	社寺跡	平	平泉字花立	43	高玉	散布地	平	平泉字高玉
4	桑ヶ城	散布地・城柵跡	調・平	平泉字桑ヶ城	44	比丘尼寺	社寺跡	平	平泉字黄金沢
5	南原塚	基盤	中・近	平泉字南原	45	鳥居前跡	城柵跡	中・近	平泉字小金沢
6	南原Ⅱ	散布地	(奈)・平	平泉字南原	46	祇園Ⅰ	散布地	平	平泉字祇園
7	鶴ヶ原	城柵跡	中・近	平泉字南原	47	祇園Ⅱ	散布地・社寺跡	平	平泉字祇園
8	中尊寺	散布地・社寺跡・經塚	調・平	平泉字衣闋	48	佐野原	散布地	(奈)	平泉字佐野原
9	鎧懸の森	基盤	平	平泉字大沢	49	片岡Ⅰ	散布地・城柵跡	調・中近	平泉字片岡
10	毛越Ⅰ	社寺跡	平	平泉字毛越	50	片岡Ⅱ	散布地	調	平泉字片岡
11	毛越Ⅱ	社寺跡	平	平泉字毛越	51	黒沢船	城柵跡	中・近	平泉字片岡
12	毛越Ⅲ	社寺跡	平	平泉字毛越	52	高田	散布地	調	平泉字高田
13	毛越IV	社寺跡	平	平泉字毛越	53	種瀬	散布地	平	平泉字種瀬
14	毛越V	社寺跡・城柵跡	平	平泉字毛越	54	佐野	散布地	調・平・近	平泉字佐野
15	毛越VI	社寺跡	平	平泉字毛越	55	新城塚	城柵跡	中・近	平泉字高田前
16	要室I	散布地	平・近	平泉字要室	56	宿	散布地	平	平泉字宿ほか
17	要室II	散布地	調	平泉字要室	57	大仏	城柵跡	中・近	平泉字大仏ノ沢
18	安土城	城柵跡	中・近	平泉字要室	58	正法	散布地	中	平泉字大仏
19	善阿弥	散布地		平泉字善阿弥	59	北船	集落跡	調・平	衣川区横道下43ほか
20	坂下	散布地・社寺跡	平	平泉字坂下	60	長者那麻寺	寺院跡	古?	衣川区田中西
21	衣闋	社寺跡・屋敷跡	平	平泉字衣闋	61	楓道下	散布地	調	衣川区楓道下47-212ほか
22	高船	城柵跡	調・平	平泉字高船	62	船	屋敷跡	古	衣川区山口77-112ほか
23	柳之御所	城柵跡	平	平泉字柳之御所	63	小松櫻	城柵跡	近	衣川区楓道下53-2ほか
24	蘿間ヶ原	出跡	平	平泉字蘿間ヶ原	64	桜瀬	墳墓	近	衣川区桜瀬
25	金瀬山	基盤	平	平泉字花立	65	御瀬面	屋敷跡	近?	衣川区渕水ノ上1412ほか
26	蟹量光院	社寺跡	平・近	平泉字花立	66	衣川樺	城柵跡	中?	衣川区蟹木前2-212ほか
27	白山社	社寺跡	平	平泉字大沢	67	下留	散布地	調	衣川区上野761ほか
28	毛越寺	調・平・近	平泉字大沢	68	星雲壇	城柵跡	中?	衣川区川端	
29	穀自在王院	社寺跡	平	平泉字志瀬山	69	松下	散布地	調	衣川区松下66
30	鉢沢の池	地跡	平	平泉字鉢沢	70	七日市場	市場跡	古	衣川区七日市場28ほか
31	志瀬山	星雲跡・瓦窯跡	平・中近	平泉字志瀬山	71	接待館	居館跡?	古・12C・中	衣川区志瀬61ほか
32	倉町	星雲跡	平	平泉字倉町	72	六日市場	市場・集落跡	中	衣川区六日市43-2ほか
33	奥屋	散布地	調・中・近	平泉字奥屋	73	衣の関道	関道跡・散布地	古～中	衣川区谷間起95
34	国側館	城柵跡	平・中	平泉字倉町	74	酒屋	散布地	調・古	衣川区並木前ほか
35	鳴海館	星雲跡	平	平泉字倉町	75	足郡屋敷	星雲跡	近	衣川区原西裏11ほか
36	大沢	散布地	調	平泉字大沢	76	池田	散布地	調・古・近	衣川区池田42-4ほか
37	三日町I	散布地	調・平・中近	平泉字三日町	77	上野	散布地	近?	衣川区上野48-3
38	三日町II	散布地	(奈)	平泉字三日町	78	表	散布地	調・古・近	衣川区表62ほか
39	三日町III	散布地・社寺跡	平	平泉字三日町	79	綿田	散布地	調・近	衣川区綿田60-1ほか
40	新井田	散布地	平	平泉字新井田	80	押田	散布地	近?	衣川区大石ヶ沢



III 調査・整理の方法

野外調査

本事業に伴う発掘調査は県道部分の下を掘ることになるため以下のような方針で行われた。まず初年度の無量光院跡第29次調査では一定区間を一定期間片側通行止めとしたうえで、その区間の舗装や路盤を剥ぎ遺跡の調査を行う。調査が終了するとすぐに部分終了確認を実施し埋め戻す。そして別の区間も期間を定めて通行止めとして調査し部分終了確認を経て埋め戻す。これを繰り返して野外調査を進めていった。無量光院跡が特別史跡ということもあり確認調査を原則とし、検出遺構については最小限の精査に留めて遺構保護に努めた。今回調査した伽羅御所跡も基本的にこのような手順で進めたが、遺構は原則完掘して実測し、遺物も全て取り上げてきた。作業の効率化と住民の利便性を確保するために部分終了確認も回数を減らしている。

調査区の設定と遺構の命名

伽羅之御所跡第23次調査は県道中尊寺通り線の道路部分を調査対象とした。調査区の地区割りにあたっては、それぞれの調査区が分かれているためそれごとに地区割りをしている。平面直角座標（第X系：世界測地系）に合わせた基準点・補点をもとにして、遺構や地形測量を行ったが、グリッド設定はしていない。設定した基準点・補点の座標は世界測地系であり、座標値は以下のとおりである。

<伽羅之御所跡第22次調査>

基準点1 X = - 111968.309	Y = 24587.312	H = 25.689 m
区割付A-1 X = - 111970.000	Y = 24610.000	H = 26.025 m

<伽羅之御所跡第23次調査>

基準点2 X = - 111891.689	Y = 24595.863	H = 26.607 m
-----------------------	---------------	--------------

区割付杭の座標値は第21図に記載している。

この基準点と区割付杭を基準として調査区および検出遺構や出土遺物の記録をとった。調査区は、伽羅之御所跡第23次調査で調査区1～33まであり、遺構出土遺物に関してはこの調査区ごとに取り上げた。

遺構の名称

検出された遺構の名称は、遺構の種類に応じて検出順にそれぞれ番号を付けて、1号土坑・2号土坑、1号井戸跡・2号井戸跡…のように命名した。精査の過程や終了後に検討した結果、遺構ではないと判断したものや、遺構の種類を変更した番号については、混乱を防止するために欠番とした。よって掲載の無い遺構名は遺構ではなかったものである。本調査では性格不明遺構に関してのみ遺構略号としてSXを使用した。

試掘・粗掘と遺構検出

通常の発掘調査の中で行われるような試掘は行っていない。それは前述したように通行止めにした県道の下を調査しているためである。一つの調査区は幅3m弱、長さ7～20mと一定ではない。これは道路状況や住宅地との関係で任意に設定しているからである。重機で舗装と路盤、その下の近代よりも新しい土層までを除去し、統いて人力で掘り下げて遺構を検出する。搅乱がある場合、あえて

その搅乱を掘って先に土層の状況を確認するのに利用したりもした。可能な限り遺構外出土遺物を採取することに努め、遺構の検出は、所謂地表面を基本ながらも各土層でも適宜行った。

精査

検出された遺構は、調査区が狭いために4分法、2分法といった基本通りに調査できないものが多くた。しかし各遺構には1本ないしそれ以上の土層断面観察・実測用のベルトを入れた。そして精査の各段階において必要な図面の作成や写真撮影を適宜行った。

遺構外出土の遺物は、埋土で可能な限り分層して取り上げ、底面出土や残存状態の良い遺物は写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、原則として調査区ごとに出土した層位を記して取り上げ、状態の良いものは写真撮影・図面作成を行った。

また、現場での記録作成では、上記の図面・写真以外にField・Cardを使用して、遺跡の調査経過や遺構の精査の進捗状況を記録している。

実測・写真撮影

電子平板を使用して平面実測を行った。各遺構の測点はかつての造り方実測と同程度である。レベルは、基準高をもとに絶対高で記録される。断面実測については、任意の高さを基に設定した水糸を基準として計測を行い、縮尺1/20の手書き実測図とした。

写真撮影は、中判1台（モノクローム）、1000万画素以上の一眼レフデジタルカメラ1台を使用して調査員が行った。撮影に際しては、整理時の混乱を避けるために撮影カードを使用した。実際の撮影は各種遺構の覆土堆積状況、掘り上げ状況、遺物の出土状況などについて行っている。調査終了段階でセスナ飛行機による航空写真撮影を行っている。

土層注記

断面図作成後に土層注記を行った。観察項目は、色調・土の種類・縮まり・混入物などである。基本的には『新版標準土色帳』（1990年版、小山正忠・竹原秀雄編・著）をもとにしているが、縮まりは、調査員の主觀で判断した。個々の遺構の覆土堆積状況は、自然堆積か人為堆積かの判断と、埋没している土の起源を把握することを課題とした。層名は調査区内に見られる基本的な土層をローマ数字（I・II・III）、遺構内埋土をアラビア数字（1・2・3）で表した。層位の細分の必要が生じた場合は、小文字のアルファベットを付し、I a・I b・I c・…などと表わした。複数人で土層注記を行っているため表現方法が異なる部分も見られるが敢えて手直しすることはせず併記することとした。

普及活動・史跡整備

野外調査での成果は地元住民を対象として調査区の傍に掲示板を立てて、遺跡の内容が分かるようにした。県民を対象とする「平泉文化フォーラム」で遺跡の内容を発表した。「平泉遺跡群調査整備指導委員会」でも調査成果を報告している。また調査中の遺跡を見学できる現地説明会（公開）も適宜実施した。

現地公開 平成25年4月27日

現地公開 平成26年9月18日

<伽羅之御所跡第22次調査> 平泉遺跡群調査整備指導委員会 平成26年1月23日

<伽羅之御所跡第22次調査> 平泉文化フォーラム 平成26年2月2日

<伽羅之御所跡第23次調査> 平泉遺跡群調査整備指導委員会 平成26年9月18・19日



平泉遺跡群調査整備指導委員会 平成27年2月6日
 <伽羅之御所跡第23次調査> 平泉文化フォーラム 平成27年1月25日

室内整理

室内整理の期間は以下のとおりである。

遺跡名	室内整理の期間
伽羅之御所跡第22次調査	平成25年7月1日～平成25年7月22日、平成25年12月1日～平成26年3月31日
伽羅之御所跡第23次調査	平成26年12月1日～平成27年3月31日

期間内で、出土遺物・実測図・写真などの整理を行った。野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は室内整理の段階で次のように処理し、整理を行い、報告書作成とともに資料化を行った。

遺構に關わる記録

実測図は遺構ごとに分類し、図面は点検のうえ、デジタルトレースを行った。電子平板で測量したデータについては、現場で計測した情報をそのまま保存することとし、編集用データは、手実測で記録したその他の実測図と合成し、遺構図版を作成している。

野外調査で撮影した写真については調査区ごとに分類し整理した。その中から代表的な写真を選び遺構写真図版を作成し報告書に掲載している。

撮影されたフィルムはネガアルバムに密着写真と一緒にして収納した。

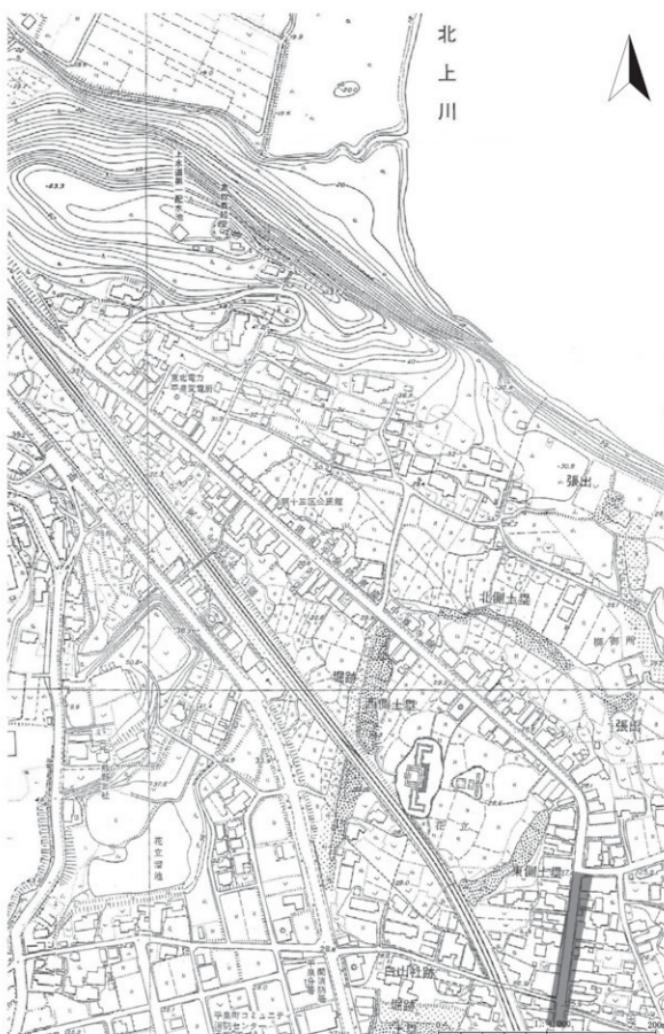
遺物の整理

遺物は現地及び当センター整理室で水洗した後、細片は別として、出土地点・層位等を登録した遺物Noを各破片に注記した。その後、出土地点・層位ごとに仕分けを行い、遺構ごと、遺構外出土の遺物は調査区ごとに接合、復元作業を行った。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮小して図化した。放射性炭素年代測定の分析は外部の専門家に委託した。

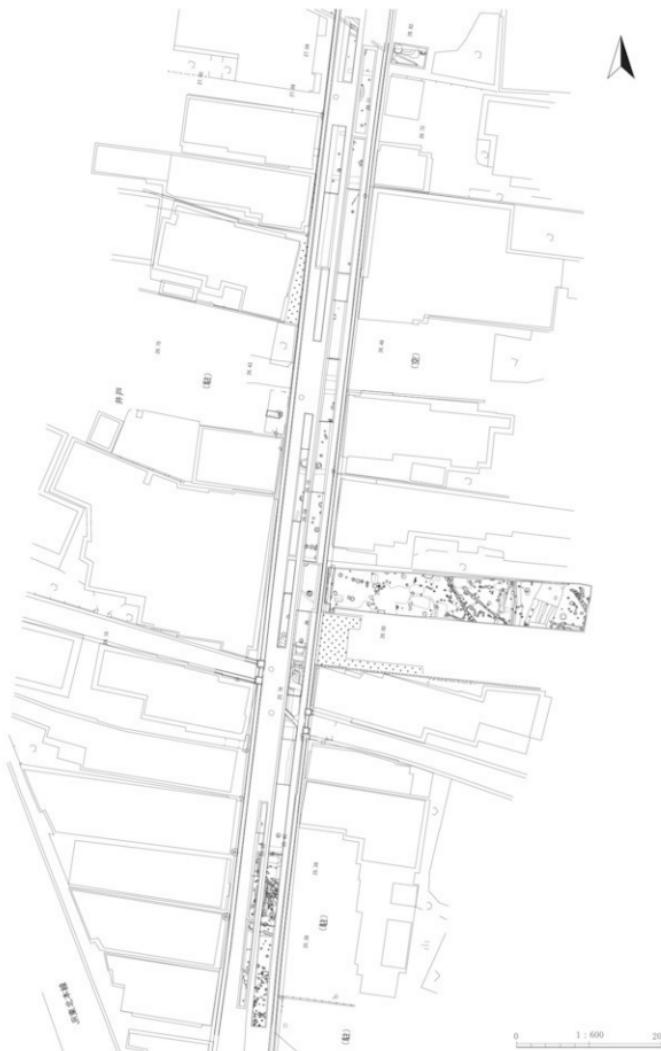
遺物の選別・図化の基準

遺物の整理・報告にあたっての作業・記録作成は以下の方針で進めた。報告書に掲載された遺物は出土した遺物のすべてではなく、整理のなかで設定した基準を基に選別した一部の資料である。各遺構に伴う遺物を最優先し、遺構外出土であっても本遺跡を代表するものについては掲載した。また、各種の遺物については破片数、重量の計測を行い台帳作成している。残りの良い遺物は図や拓本を取り、写真撮影した。そうでないものは写真だけ撮っている。





第6図 遺跡地形図と調査区



第7図 遺構配置図1

- 10 -

III 調査・整理の方法



第8図 遺構配置図2



IV 伽羅之御所跡第22次調査

1 概 要

遺跡は西磐井郡平泉町平泉字伽羅楽地内から字花立内にある。遺跡の範囲は東西約200m×南北約100mと広く、現況は住宅地が主である。その他は水畑や田となっている。調査区は宅地であった。遺跡としての伽羅之御所跡のなかでは西端の中央付近を調査したことになる。

遺構は12世紀後半の堀跡1条、掘立柱建物跡1棟、土坑4基、柵列2条、溝跡7条、柱穴242個が検出された。検出された遺構は12世紀、平泉藤原氏時代のものとそれ以降の遺構からなるが、明らかに13世紀や11世紀となるような遺構や遺物は見つからなかった。

2 基 本 層 序

調査区内はかつて住宅であったために、基礎や水道管などの痕跡が多く見られ遺構の残りは良くなかった。

3 検 出 遺 構

(1) 堀 跡

伽羅之御所跡第1次調査が今回の調査区の北側約20mの地点で実施されている。その時に検出されている大溝跡と今回の調査で見つかった1号堀跡は互いの位置関係、形態・規模が似ていることから同じ遺構である可能性が極めて高い。堀跡の規模や形状、埋土や出土遺物等については観察表にも整理している。

1号堀跡（第11図、写真図版3・4）

＜位置・検出状況＞調査区の東側にあり、地山面で検出した。検出段階では他の遺構との重複関係はそれほど多く見られなかった。しかし周囲には多くの遺構が分布していたのでまずは小トレンチを設け、断面で各遺構との重複関係を確認しつつ精査に入った。

＜規模・形状＞検出面での長さは71m、上幅36m、深さが12mあり、方向はN-22°-E。断面形はV字に近い形となる。底面は幅が0.3m程で比較的の平坦である。壁面は所々で崩落とみられる凹凸があった。

＜埋土・重複関係＞底面付近は自然堆積。埋土中位には人為堆積が部分的にみられるものの、基本的には自然堆積によって堀は埋まっていた。遺構が機能していた段階で、部分的に土砂及びかわらけ



注記は第12図にあり

断面図 L=25.900m S=1:30

細片や炭粒などが少量、投げ捨てられていた痕跡が数か所見られた。

5号溝跡と重複している。切り合い関係は明瞭ではなかったものの本遺構が5号溝跡に切られるようには見られなかつたので本遺構のほうが新しいと判断した。

<出土遺物・時期>（第17図、写真図版12～15）

かわらけが10513.59g出土している。手づくねかわらけ（6）の口径はあまり大きくなないので12世紀後半のものであろう。

<性格>隣接する無量光院跡の西辺には土壘と堀跡が現存している。土壘が内側、堀跡が外側で両者は接するように北北東・南南西方向に延びている（N-10°-E）。この現存する堀・土壘の方向と本遺構の主軸方向は概ね一致している。のことから「伽羅御所」と「無量光院」を区画していた堀跡の可能性が高い。

（2）掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（第12図、写真図版5）

<位置・検出状況>22次調査区の西側と隣接する23次調査区にかけて位置している。現況が住宅地及び県道であったこともあり周囲には搅乱が多い。22次調査区では地表面から30cm下の地山面で、県道部分では路面から70cm下の地山面で検出している。本来同じ高さの地山面であったのだろうが、県道部のはうが厚く削平されたものである。

<重複関係>2号堀跡とは重複しないもの接するように近い場所にある。平面的に10・11号溝跡と重複するが新旧関係は不明である。

<平面形式>南北棟の掘立柱建物である。桁行き17,483mm(57.7尺)、梁行きは10,090mm(33.3尺)。桁行7間、梁行4間の総柱建物になる可能性が高い。予想床面積は176.40m²(53.45坪)となる。

<建物方位>N-17°-E

<柱穴>柱穴の大きさに特段の違いはない。大半の柱穴は開口部径で50～70cmの範囲であった。柱痕跡を確認できた柱穴は5個である。これを見ると径25～30cmの円形基調の柱材が用いられていたことが分かる。明瞭な抜き取りの痕跡を残す柱穴は無かった。

<柱間寸法>桁行きは北から8.0尺、7.9尺、8.4尺、8.6尺、7.6尺、8.8尺、8.4尺と不揃いであった。平均値から8.2尺を意識していたのではないかと考えられる。梁行きは西側が8.7尺で他は8.2尺である。のことから梁桁共に8.2尺を基準の柱間寸法にしていたと推測される。

<出土遺物>遺構に伴う遺物はない。

<時期・建物の性格>出土遺物はないものの12世紀とするのが最も妥当である。建物規模は平泉町内で見つかっている掘立柱建物の中でも有数の規模である。加えて南北棟の総柱建物であることも合わせると格の高い邸宅、若しくは特殊な建物の可能性がある。

（3）土 坑（第13図、写真図版5・6）

4基の土坑を検出した。時期が12世紀代のものと12世紀以降の土坑とに分けられる。各遺構の特徴については表に整理した。何れもIV層地山上面での検出であった。

（4）溝跡・柵列跡（第14～16図、写真図版6～9）

7条の溝跡と2条の柵列跡を検出した。これらの遺構は検出した段階では区別できないものが多くためここでは一括して報告したい。精査の結果、単純に地面を掘り込んでいるだけのものを溝跡、



柱穴を直線的に連ねたような構造をしているものを柵列と分類した。

これらの殆どは調査区外に延びており、加えて途中で撓乱を受けているため全容が把握できたものは無い。それでも各遺構の方向を比較すると類似するものが多い。同時期にあって、並列して造られていた可能性もある。

柵列跡は何れも12世紀と考えている。溝跡は12世紀のもの、12世紀よりも新しいものがあるが、各遺構の内容については表にまとめている。何れもIV層の地山上面で見つかっている。

(5) 柱 穴

今回の調査では242個の柱穴が見つかった。調査区が嘗て宅地であったこともあり、近世や近代の遺物も多く出土している。よって12世紀の柱穴と、近世・近代頃の柱穴とがあると考えられるが、遺物を伴うものは少ないため時期の判然としないものも多い。遺構検出面はIV層である(第5表)。

4 出 土 遺 物

12世紀の遺物としてかわらけ、国産陶器、中国産磁器、石製品が出土した。その殆どが1号堀跡出土である。他に縄文時代の石器が出土している。

(1) か わ ら け (第17図、写真図版12)

平泉における12世紀のかわらけはロクロ整形と非ロクロ整形(手づくね)に大別される。さらにこれらは大皿、小皿とその他に分けられる。ロクロかわらけは12世紀初頭から12世紀末まで、手づくねかわらけは12世紀中葉から12世紀末まで見られる。其々に個体差はあるがどちらのかわらけ大皿も12世紀末に向かうにつれて、器高が低く口径も小さくなっていく傾向がある。そうした視点で今回出土したかわらけを見てみると、手づくねかわらけの大皿では口径が15cm以下である。器高も皆3.1cm未満のもので構成される。表面の調整を見ると1段ナアが多く、2段ナアはかなり少い。

ロクロかわらけは出土量が少なかった。7は1号堀跡からの出土である。底径は8.4cmと大きく、12世紀後半の特徴が表れている。11は柱状高台の底部であろう。柱状高台はこの1点のみの出土である。内折れかわらけは無かった。伽羅之御所跡では過去の調査で12世紀後半よりも古手のかわらけが出土している。遺跡自体が12世紀後半よりも前から使用されていた可能性が高いが、今回の調査では12世紀後半よりも古手のかわらけは出土していないようである。

(2) 陶 磁 器 (第17～20図、写真図版12～15)

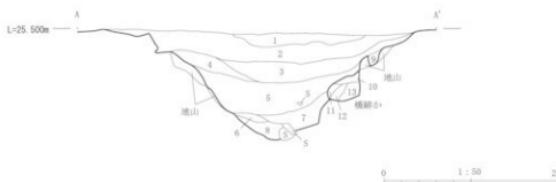
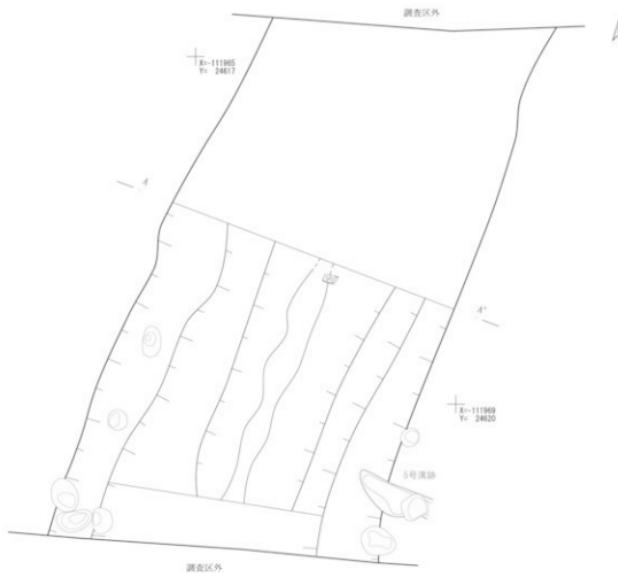
国産陶器は涅美、常滑、須恵器系陶器が見られる。何れも小破片である。この3種に出土状況の違いはない、出土量を見ると涅美産陶器が最も多い。常滑産陶器は涅美産陶器よりやや少なかった。須恵器系は涅美や常滑に比べると出土量は少ない。

中国産磁器(第20図、写真図版15) 中国産磁器は、白磁四耳壺、碗、皿類が出土している。出土した全てを掲載した。

(3) 石 器・石 製 品 (第20図、写真図版15)

47・48は縄文時代の石器である。遺構に伴わない遺物である。49～52は扁平な石の葉面に煤が付着しているもので、用途は不明である。12世紀の遺物の可能性が高い。

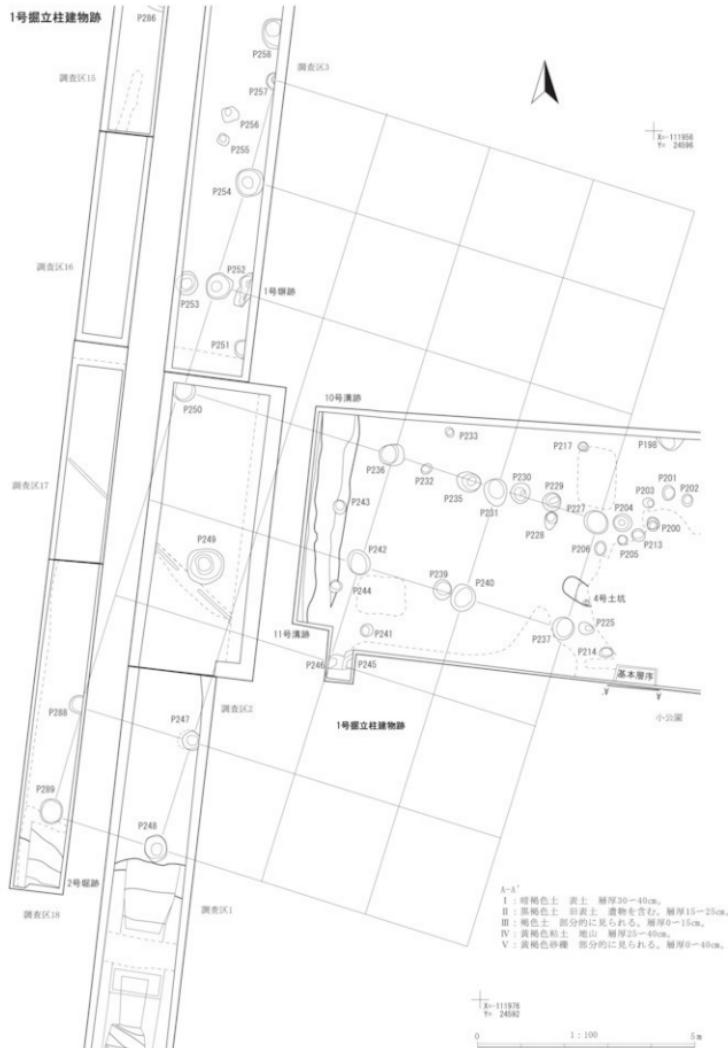
1号堤跡



1号堤跡

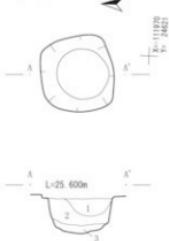
- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| 1. 10Y3/2 黒褐色土 | 粘性やや弱 緩まり強。 |
| 2. 10Y4/2 暗黄褐色土 | かわらけ細片微量 地山小ブロック微量 粘性やや有 緩まりやや有 |
| 3. 10Y4/2 暗黄褐色土 | かわらけ細片微量 地山大ブロック微量 同原石微量 粘性やや有 緩まりやや有 |
| 4. 10Y4/1 暗黄褐色土 | かわらけ細片微量 粘性やや有 緩まりやや有 |
| 5. 10Y4/1 暗灰褐色土 | かわらけ細片少量 地山ブロック少量 河原少少量 粘性有 緩まりやや有 |
| 6. 10Y4/1 暗灰褐色土 | 砂粒少量 粘性有 緩まりやや有 |
| 7. 10Y4/2 暗黄褐色土 | 地山ブロック多量 粘性やや有 緩まりやや有 |
| 8. 10B3/2 暗青褐色砂質土 | 砂粒多量 地山ブロック微量 粘性やや有 緩まり弱 |
| 9. 10Y5/1 暗灰色土 | 地山ブロック多量 粘性弱 緩まっている |
| 10. 10Y6/6 明黄褐色土 | 灰黄褐色土微量 粘性やや有 緩まりやや有 |
| 11. 10Y4/1 暗灰色砂質土 | 粘性やや有 緩まりやや有 |
| 12. 10Y6/1 暗灰色粘土質土 | 灰白色粘土少量 粘性有 緩まっている |
| 13. 10Y6/1 暗灰色粘土 | 灰白色粘土多量 粘性有 緩まっている |
- ※基本的に人為と自然の混在 土と灰 河原土 かわらけ細片を湖に堆棄している 底面まで下げるとき水が染み出でくる

第11図 堤跡

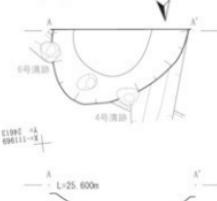


第12図 掘立柱建物跡

1号土坑



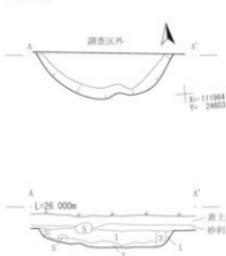
2号土坑



1号土坑

1. 10788/3 淡黄褐色土ブロック 敷間に灰黄褐色土 人為堆積 12C 黏性有 細まり有
2. 10784/2 灰黄褐色土 地山ブロック(1層と同様)微量、皮粒極微量 人為堆積 12C 黏性やや有 細まりやや有
3. 10784/2 灰黄褐色土 人為堆積 黏性やや有 細まりやや有

3号土坑



4号土坑



3号土坑

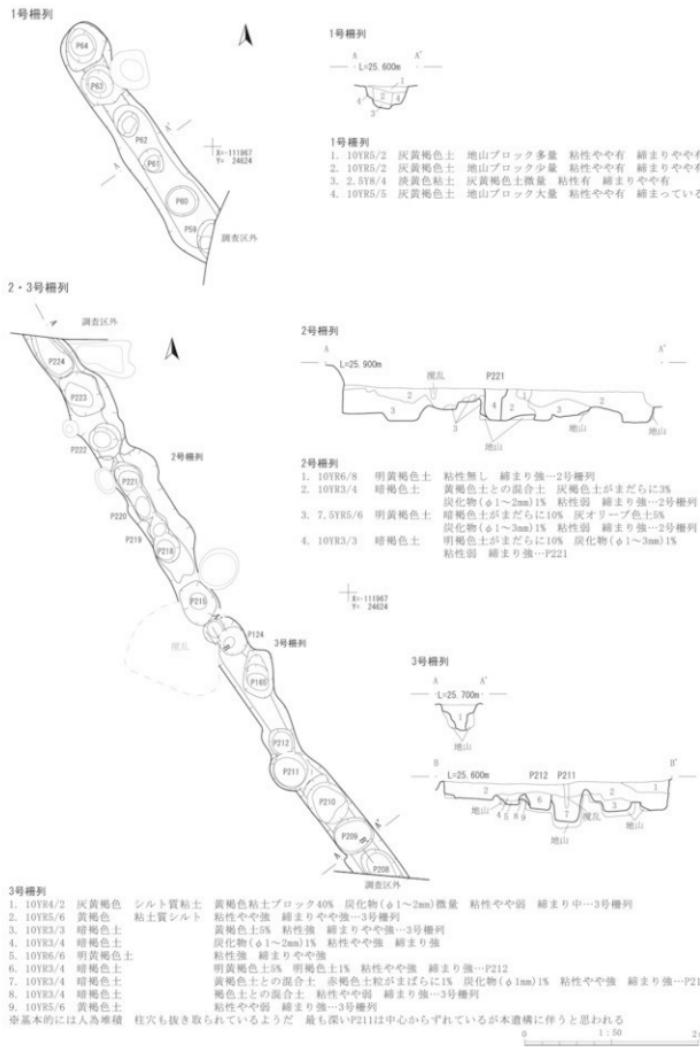
1. 10782/3 黑褐色土 明赤褐色土粒3% 硫化物($\phi 1\sim12mm$)3% 黏性やや強 細まり強
2. 10785/4 に赤い黄褐色土 明赤褐色土粒1% 硫化物($\phi 1\sim11mm$)1% 黏性やや強 細まり強
3. 10783/2 黑褐色土 黏性弱 細まりやや弱

4号土坑

1. 10784/4 棕褐色土 棕色土ブロック($\phi 2mm$)極微量 硫化物($\phi 1mm$ 以下)極微量 粘($\phi 1mm$ 以下)を主ばらに含む
粘性弱 細まり中

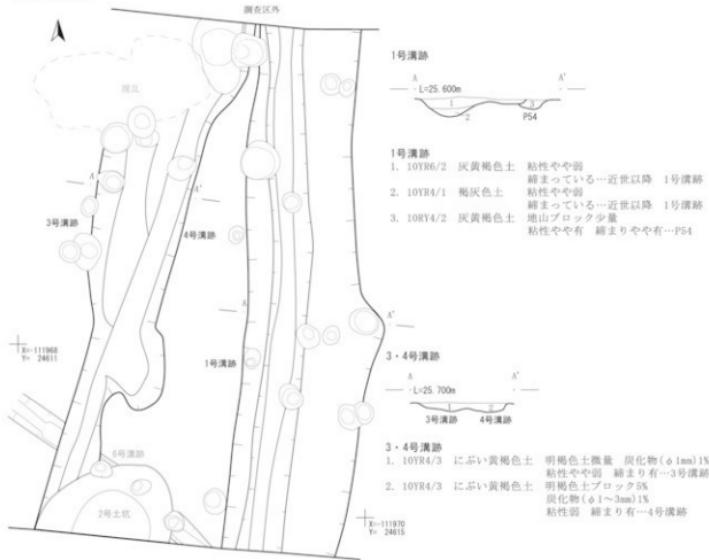
0 1 : 50 2m

第13図 土坑

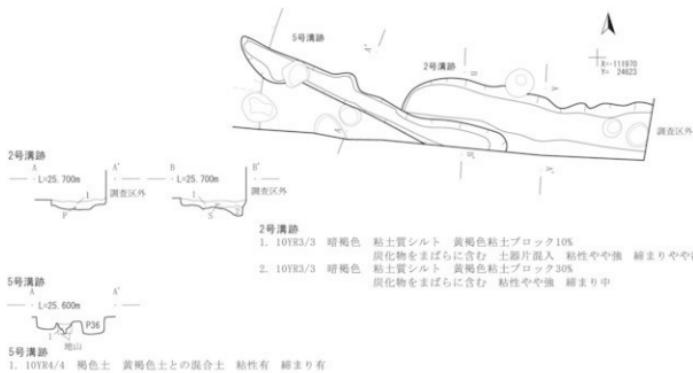


第14回 柵列跡

1・3・4号溝跡



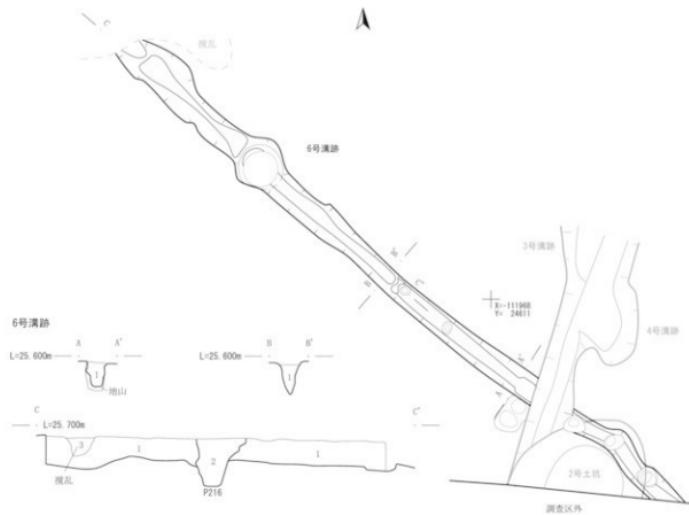
2・5号溝跡



第15図 溝跡1

0 1:50 2m

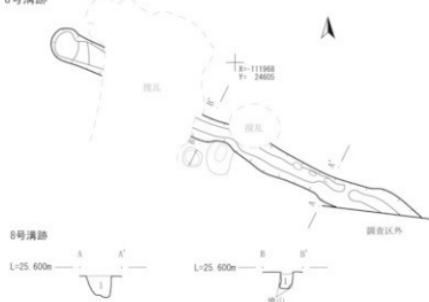
6号溝跡



6号溝跡

1層 10Y4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 黄褐色粘土ブロック20% 炭化物(φ1~2mm)少量 粘性中 締まりやや密…6号溝跡
2層 10Y3/3 暗褐色土 黄褐色土がまばらに3% 炭化物(φ1~3mm)少量 粘性弱 締まり強…P216
3層 10Y3/3 暗赤褐色土粒3% 粘性強 炭化物(φ1~1mm)少量 粘性弱 締まり強…擾乱

8号溝跡

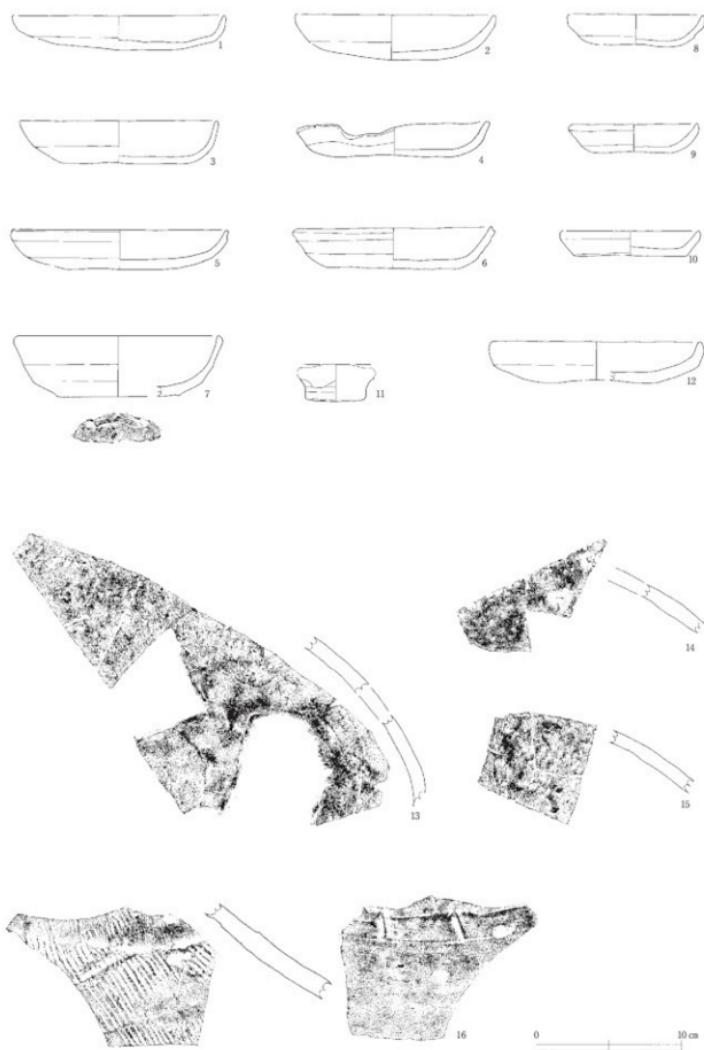


8号溝跡

1層 10Y4/2 灰黄褐色 シルト質粘土 黄褐色土30% 炭化物(φ1mm)微量 粘性やや弱 締まりやや密

0 1:50 2m

第16図 溝跡2

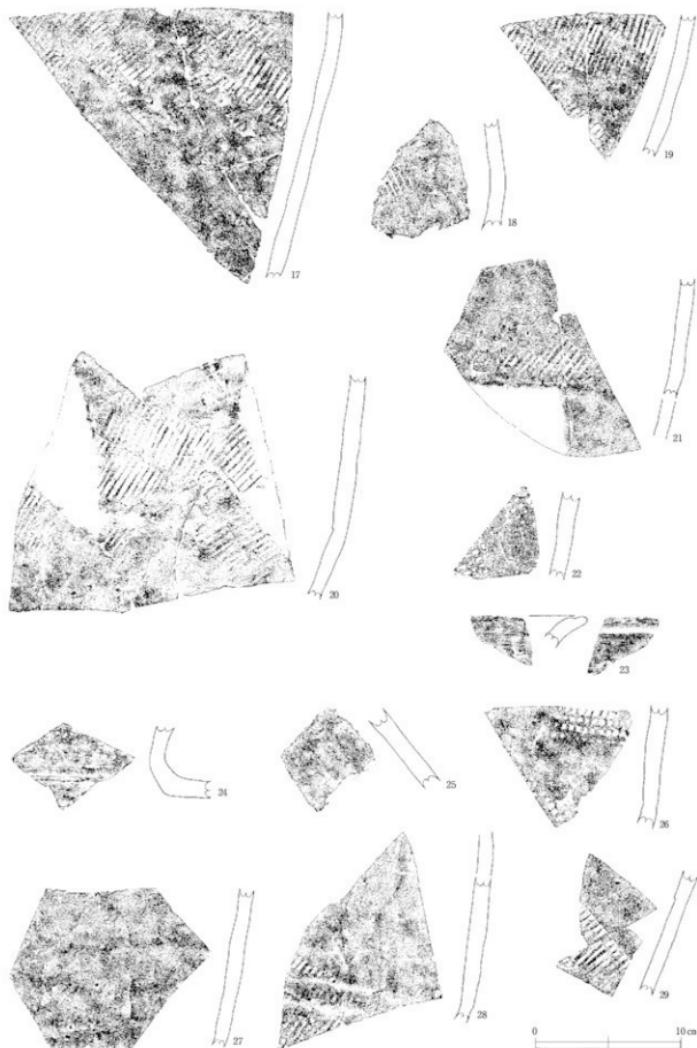


第17圖 出土遺物 1

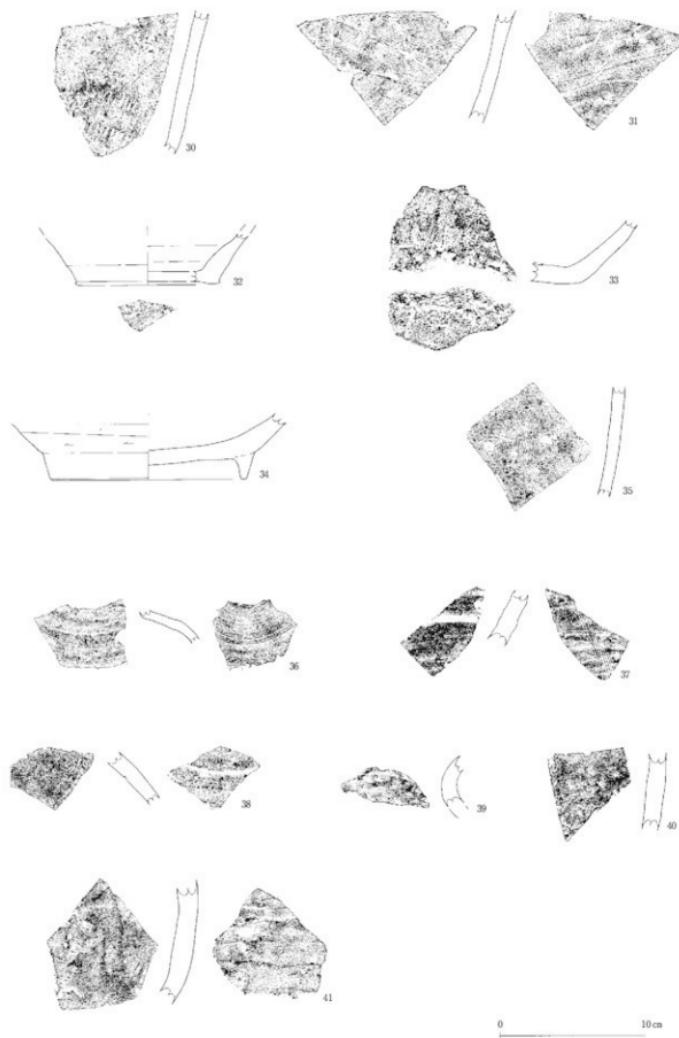
- 21 -



4 出土遺物



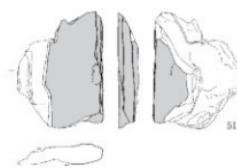
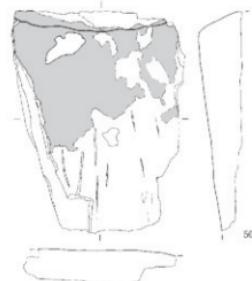
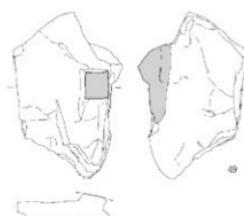
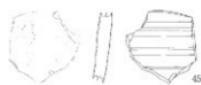
第18図 出土遺物2



第19圖 出土遺物3

- 23 -

4 出土遺物



第20図 出土遺物4

第2表 塙跡・溝跡・橋列跡観察表

計測値の単位:m

遺構	位置	規模		方向	埋土、重複など	出土遺物 時期	その他
		長幅	短幅/幅深/深さ				
1号溝跡	萬葉区 の東側	(7.1) / -3.6 / 1.2	N - 22° - E	埋土の上層は自然堆積 埋土下位は地山ブロックや砂粒を多量に含む人為堆積で埋土の「場」でもあった可能性がある 5号溝跡より新しい	かわらけ 陶器 12 世紀後半	1次調査検出の大 溝とは同じ遺構	
1号横列跡	萬葉区 の東側	(3.0) / -0.5 / 0.3	N - 34° - W	灰褐色土色より淡黄色土色のブロックからなる人為堆積 溝内 に柱穴が一列に連なる	12世紀	段0.3mの柱穴径 0.2mの柱根	
2・3号 溝跡	萬葉区 の西側	(7.4) / -0.5 / 0.3	N - 31° - W	地山ブロックを主とする人為堆積 溝の中に柱穴が連続してある 砂が散らばっているものも多い	12世紀	1号横列跡と方角 が近い	
1号溝跡	萬葉区 の中央	(6.0) / -1.2 / 0.2	N - 2° - E	灰褐色土色より暗灰色土色からなる自然堆積	近世以降		
2号溝跡	萬葉区 の東側	(2.9) / -0.6 / 0.2	N - 79° - W	暗褐色土色に地山ブロックや砂粒を少量含む人為堆積	12世紀		
3号溝跡	萬葉区 の中央	(3.1) / -0.6 / 0.1	N - 5° - E	に高い黄褐色土色の單層で自然堆積か人為堆積かは不明 4号 溝跡との削出關係不明	12世紀		
4号溝跡	萬葉区 の中央	(6.0) / -0.5 / 0.1	N - 21° - E	に高い黄褐色土色の單層で自然堆積か人為堆積かは不明 3号 溝跡との削出關係不明	12世紀	1号溝跡と方角が 近い	
5号溝跡	萬葉区 の東側	(3.0) / -0.2 / 0.2	N - 62° - W	1号溝跡より古い 人為堆積	12世紀	8号溝跡と方角が 近い	
6号溝跡	萬葉区 の西側	(8.1) / -0.2 / 0.3	N - 51° - W	灰褐色土色より暗褐色土色に地山ブロックをまばらに含む人為堆 積 4号溝跡より新しくはない	12世紀		
8号溝跡	萬葉区 の西側	(4.2) / -0.3 / 0.2	N - 63° - W	灰褐色土色に地山ブロックや砂粒を含む人為堆積	12世紀	5号溝跡と方角が 近い	

第3表 土坑類観察表

計測値の単位:m

遺構名	位置	規模		形状 底面	埋 土	時期	その他の 特徴
		長幅	短幅/幅深/深さ				
1号土坑	東側	09 / 08 / 04	隅丸方形	地山ブロックを多く含む人為堆積	12世紀	かわらけ	
2号土坑	東側		円形か	黒褐色土主体の自然堆積	不明		
3号土坑	西側	15° / 02	不整円形	黒褐色土主体の自然堆積か	不明		
4号土坑	西側	(0.7) / -0.5 / 0.2	長円形	褐色土の單層だが人為堆積の可能性あり	12世紀の可能性あり		

第4表 柱穴観察表

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P01	35.0	(15.7)	21.4	P27	(34.8)	(13.3)	10.9
P02	27.4	24.8	28.6	P28	(23.4)	22.0	21.8
P03	68.3	35.9	9.4	P29	19.2	(12.3)	16.9
P04	30.5	27.0	11.4	P30	28.3	(24.3)	11.6
P05	32.4	25.7	18.6	P31	22.2	20.0	14.0
P06	44.0	31.1	10.5	P32	27.3	21.2	12.5
P07	27.7	26.9	22.1	P33	33.3	30.6	25.3
P09	27.1	25.5	13.0	P34	23.8	17.5	11.2
P10	36.3	32.3	12.2	P35	40.5	28.2	23.3
P11	46.7	31.4	7.0	P36	41.2	38.5	15.8
P12	19.1	(16.4)	20.0	P37	19.9	15.0	11.9
P13	36.0	22.2	10.9	P38	31.0	(18.7)	18.4
P14	44.5	43.5	19.8	P39	30.0	(19.0)	28.5
P15	32.6	32.5	13.9	P40	(23.7)	(19.8)	15.0
P16	63.7	53.3	28.4	P41	62.8	60.1	54.7
P17	21.2	16.3	9.4	P42	82.4	(61.7)	12.9
P18	28.5	24.4	7.0	P43	40.0	28.5	35.9
P19	23.5	17.0	10.6	P44	(20.7)	22.3	18.3
P20	46.2	36.5	13.2	P45	30.0	27.3	12.0
P21	17.0	13.7	13.1	P46	25.0	19.6	15.5
P22	21.7	19.0	15.3	P47	31.7	(24.1)	19.3
P23	37.4	34.7	23.2	P48	15.4	13.8	14.2
P24	25.6	(19.6)	42.6	P49	19.9	16.0	12.6
P25	(11.1)	(21.8)	15.8	P50	22.1	(21.6)	33.5
P26	(32.5)	(27.9)	15.1	P52	29.0	24.3	23.1

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P53	21.7	19.2	15.8	P115	38.8	32.9	29.5
P54	34.4	28.8	15.4	P116	32.4	29.9	55.1
P55	20.3	18.7	13.4	P117	(36.2)	27.8	14.3
P56	29.0	26.0	41.7	P118	29.8	27.5	62.1
P57	19.2	17.4	28.7	P119	30.8	27.8	13.9
P58	24.0	21.7	20.9	P120	33.5	25.7	26.6
P59	43.0	(16.9)	14.1	P121	22.9	20.7	31.1
P60	35.2	34.6	9.0	P122	37.4	37.3	27.5
P61	28.9	24.6	18.6	P123	30.9	24.9	34.2
P62	28.3	23.8	16.5	P124	32.7	32.1	49.0
P63	47.1	43.1	23.7	P125	38.5	30.5	57.8
P64	56.4	43.3	29.6	P126	25.0	22.7	25.1
P65	29.1	25.9	26.2	P127	33.6	28.6	16.3
P66	22.5	20.9	31.6	P128	24.2	(20.2)	22.1
P67	25.5	44.2	60.7	P129	28.9	26.7	23.6
P68	35.0	21.1	14.2	P130	24.9	23.7	47.2
P69	22.7	21.9	42.3	P131	64.1	46.4	50.7
P70	25.1	(22.7)	34.8	P132	40.0	36.9	22.7
P71	40.8	31.8	24.0	P133	45.9	42.7	38.5
P72	40.1	24.0	42.2	P134	31.8	26.5	29.7
P73	(26.4)	31.7	4.9	P135	51.7	36.2	76.9
P74	29.7	25.3	28.5	P136	28.3	24.3	32.4
P75	28.6	21.5	35.1	P137	49.0	43.3	6.9
P76	34.0	26.6	7.4	P138	23.2	19.8	12.5
P77	36.5	31.8	4.4	P139	(19.7)	24.4	47.1
P78	40.3	37.3	32.9	P140	36.6	36.0	29.5
P79	24.1	23.5	18.7	P141	30.9	27.5	57.9
P80	23.5	17.9	8.7	P142	29.9	26.6	50.1
P81	64.6	(15.1)	18.6	P143	46.5	(27.6)	70.5
P82	22.0	16.7	12.0	P144	30.5	21.7	16.2
P83	32.9	27.0	17.4	P145	21.4	22.2	13.6
P84	52.1	19.1	16.5	P146	26.9	26.6	43.9
P85	26.1	26.0	25.0	P147	27.1	24.7	54.0
P86	31.8	24.8	30.8	P148	23.8	19.7	29.4
P87	23.4	22.0	30.6	P149	28.3	26.8	8.4
P88	20.8	19.7	28.7	P150	35.1	33.9	23.1
P89	29.3	25.2	44.5	P151	22.0	17.6	47.2
P90	(38.4)	33.5	37.5	P152	20.5	16.6	33.0
P91	48.3	41.8	56.0	P153	23.4	21.7	33.8
P92	(22.5)	17.2	17.9	P154	(14.5)	16.6	25.1
P93	22.6	(19.5)	9.2	P155	24.5	23.2	39.2
P94	42.6	31.8	52.3	P156	24.3	24.0	16.7
P95	25.8	(16.8)	49.2	P157	31.5	28.9	54.9
P96	(92.8)	62.6	97.9	P158	48.4	28.6	59.3
P97	24.9	21.6	11.7	P159	22.9	22.2	48.3
P98	28.1	(15.1)	49.6	P160	26.4	(26.1)	35.5
P99	29.8	(26.6)	28.4	P161	28.9	27.7	58.1
P100	24.3	23.6	44.7	P162	15.1	12.9	50.0
P104	14.0	9.8	9.5	P163	33.6	(26.6)	16.7
P105	12.1	8.9	6.6	P164	23.8	21.9	59.6
P106	41.6	(31.2)	28.4	P165	52.9	33.4	57.7
P107	29.2	20.4	41.1	P166	23.2	(9.5)	42.7
P108	27.4	20.3	23.6	P167	15.6	13.2	20.1
P109	26.4	19.6	14.1	P168	32.1	22.9	26.2
P110	35.8	32.7	40.2	P169	36.5	24.3	43.8
P111	24.2	20.7	23.7	P170	25.4	(24.0)	24.6
P112	29.9	31.8	42.3	P171	20.1	20.1	10.4
P113	24.1	22.2	31.0	P172	21.5	19.9	25.1
P114	30.8	28.5	16.6	P173	20.1	16.9	27.5

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P174	42.4	33.7	8.7	P209	44.4	38.9	15.3
P175	22.6	(13.9)	41.5	P210	31.5	14.6	21.5
P176	20.2	18.5	24.9	P211	(44.6)	(45.8)	43.6
P177	22.3	18.1	24.0	P212	(30.1)	28.2	12.7
P178	13.9	12.3	10.5	P213	30.3	28.2	16.7
P179	24.4	21.4	22.0	P214	32.1	22.1	35.0
P180	19.8	10.8	8.2	P215	46.2	36.4	41.7
P181	26.0	20.1	15.5	P216	(53.1)	50.8	35.8
P182	33.5	30.4	55.9	P217	24.2	20.0	20.9
P183	27.1	23.3	36.5	P218	31.8	28.0	9.3
P184	57.6	44.1	25.5	P219	(23.0)	20.3	4.0
P185	16.3	13.1	13.2	P220	(35.8)	20.0	4.5
P186	24.3	(24.2)	23.3	P221	(36.1)	27.8	2.9
P187	15.2	12.4	15.1	P222	32.1	27.4	13.4
P188	29.7	26.3	29.4	P223	51.3	39.7	25.0
P189	47.4	32.4	34.4	P224	51.8	28.8	16.4
P190	16.1	14.2	15.1	P225	34.8	27.0	31.5
P191	17.0	13.5	15.3	P226	(62.4)	41.5	29.4
P192	35.2	30.6	38.3	P227	57.6	49.0	88.5
P193	48.1	40.5	55.9	P228	41.5	28.3	49.7
P194	10.0	5.9	-	P229	42.3	41.2	58.1
P195	7.4	3.8	-	P230	44.9	44.2	37.3
P196	(5.9)	4.1	-	P231	63.0	51.1	45.6
P197	(8.1)	11.8	8.7	P232	26.4	21.1	22.6
P198	(35.7)	(51.9)	54.6	P233	22.5	18.1	8.8
P199	67.7	62.0	81.5	P234	51.6	48.7	78.0
P200	31.6	29.0	47.3	P235	54.9	43.5	45.5
P201	33.9	28.0	33.8	P236	56.1	48.6	29.5
P202	27.8	24.0	35.7	P237	14.5	11.1	24.8
P203	25.0	21.7	31.8	P238	24.5	21.0	33.5
P204	42.6	40.0	51.9	P239	44.6	40.6	13.5
P205	23.3	21.3	15.3	P240	60.7	56.7	39.7
P206	32.9	25.4	12.9	P241	28.2	29.8	26.2
P207	(21.6)	20.7	11.6	P242	59.1	48.0	41.4
P208	(33.6)	33.7	17.2				

第五表 かわらけ観察表

柵番号	出土位置、層位	種類	調整	計測値(cm)		備考
				口径	底径	
1	1号柵跡埋土下位	手づくね大	一段ナデ	(44.8)	24	
2	1号柵跡埋土下位	手づくね大	一段ナデ	(139)	31	
3	1号柵跡埋土上・下位	手づくね大	一段ナデ	138	30	口径最大143cm
4	1号柵跡埋土下位	手づくね大	一段ナデ面取り	137	28	歪みあるが定形 スノボ柵
5	1号柵跡埋土下位	手づくね大	二段ナデ面取り	(15.0)	27	口径大きい古いかわらけ?
6	1号柵跡埋土下位	手づくね大	二段ナデ面取り	140	30	
7	1号柵跡埋土下位	ロクロ大		(14.0)	6.0	42 底部回転系切机
8	1号柵跡埋土下位	手づくね小	一段ナデ	(9.6)	22	内面煤付着
9	1号柵跡埋土上・下位	手づくね小	一段ナデ面取り	9.0	20	
10	1号柵跡埋土下位	手づくね小	一段ナデ面取り	(9.8)	17	
11	1号柵跡埋土下位	ロクロ			(2.6)	柱状高台
12	1号土坑埋土	手づくね大	一段ナデ	(14.6)	28	口径大きいのが気になる



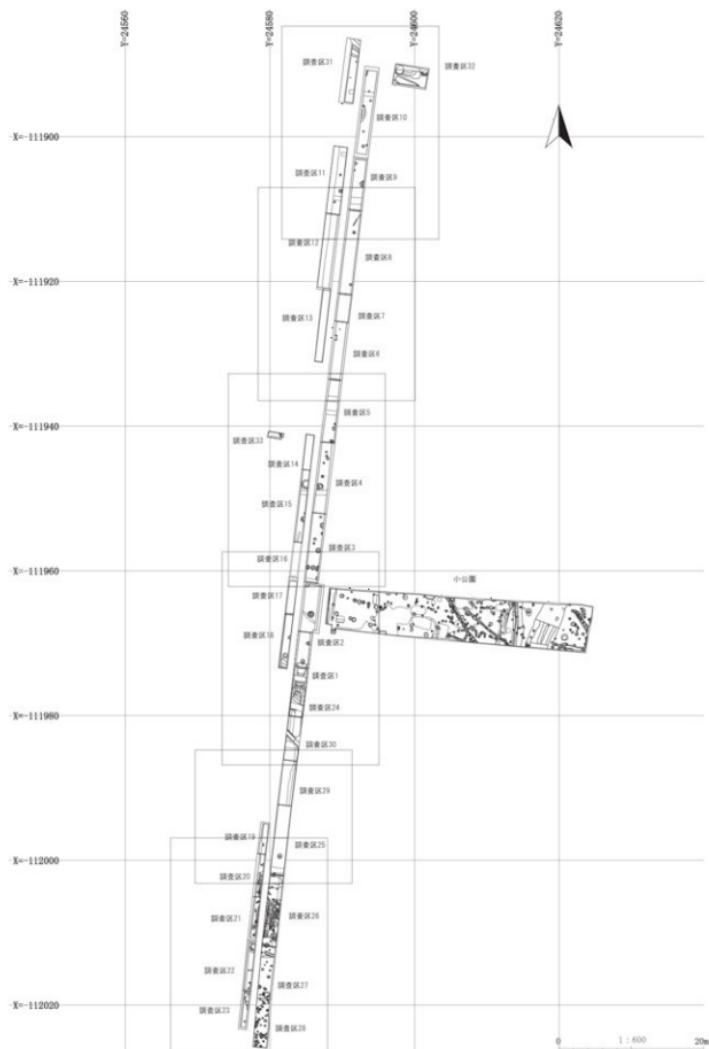
4 出土遺物

第6表 陶磁器観察表

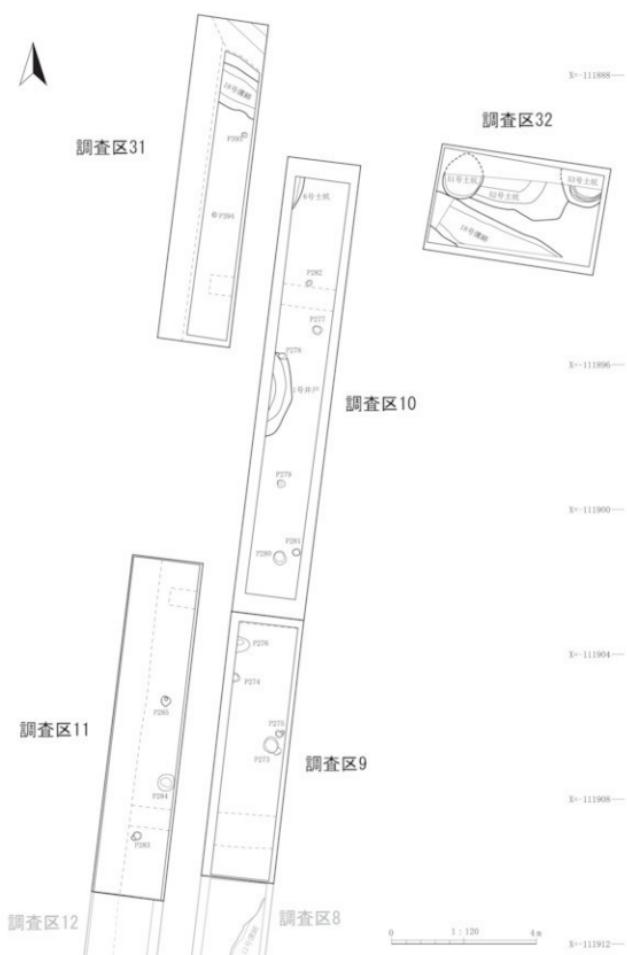
掲載番号	出土位置、層位	種類	器種	部位	年代	備考
13	1号縫跡埋土上位	深美	甕	胴部	12世紀	埋土下位・道構外と接合
14	1号縫跡埋土中 球土上位と接合	深美	甕	胴部	12世紀	
15	1号縫跡埋土上位	深美?	甕	胴部	12世紀	道構外と接合
16	1号縫跡埋土上・下位と接合	深美?	甕	胴部	12世紀	
17	1号縫跡埋土下位	深美	甕	胴部	12世紀	埋土上・下位と接合
18	1号縫跡埋土下位	深美?	甕?	胴部	12世紀	
19	1号縫跡埋土下位	深美	甕	胴部	12世紀	
20	1号縫跡埋土上位	深美	甕	胴部	12世紀	埋土下位・道構外と接合
21	1号縫跡埋土中	深美	甕	胴部	12世紀	埋土上位と接合
22	2号土坑	常滑	甕	胴部	12世紀	
23	道構外	深美	甕	口縁部	12世紀	
24	1号縫跡埋土下位	常滑	甕	胴部	12世紀	
25	1号縫跡埋土下位	常滑?	甕	胴部	12世紀	
26	1号縫跡埋土下位	常滑	甕	胴部	12世紀	
27	1号縫跡埋土下位	常滑	甕	胴部	12世紀	
28	1号縫跡埋土下位	常滑	甕	胴部	12世紀	
29	1号縫跡埋土下位	常滑	甕	胴部	12世紀	道構外と接合
30	1号縫跡埋土上・下位と接合	常滑	甕	胴部	12世紀	
31	1号縫跡埋土上位	常滑	甕	胴部	12世紀	道構外と接合
32	1号縫跡埋土上位	常滑	甕?	底部	12世紀	釉薬の痕あり
33	1号縫跡埋土下位	常滑?	甕	底部	12世紀	濃みたいなこびりつきあり
34	1号縫跡埋土上・下位	常滑	片口鉢	底部	12世紀	器高(45) 成形(13.5)
35	搅乱	常滑?	甕	胴部	12世紀	
36	1号縫跡埋土下位	頗患系	甕?	胴部	12世紀	
37	1号縫跡埋土中	頗患系	甕	胴部	12世紀	
38	1号縫跡埋土下位	頗患系	甕?	胴部	12世紀	
39	1号縫跡埋土上位	頗患系	甕?	胴部	12世紀	
40	1号縫跡埋土下位	頗患系	甕	胴部	12世紀	
41	道構外	頗患系	甕	胴部	12世紀	
42	2号溝跡埋土	白磁	四耳壺	胴部	12世紀	
43	1号縫跡埋土下位	白磁	甕	胴部	12世紀	
44	道構外	白磁	甕	胴部	12世紀	
45	1号縫跡埋土上位	青磁	甕	胴部	12世紀	
46	道構外	青磁	甕	胴部	12世紀	

第7表 石器類観察表

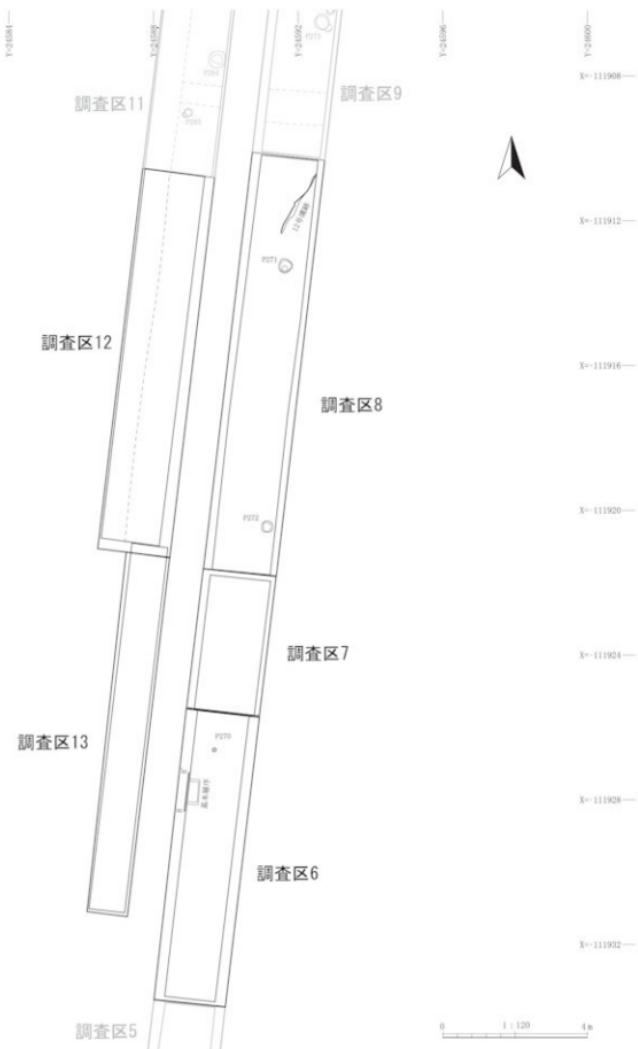
掲載番号	出土位置、層位	種類	計測値(cm)			重量 g	備考
			長さ	幅	厚さ		
47	道構外	石瓶	270	130	0.40	120	
48	1号縫跡埋土	スクレイバー	(3.70)	(1.50)	0.50	116	
49	1号縫跡埋土下位	不明	(11.50)	(7.50)	(1.90)	121.60	媒付着 小
50	1号縫跡埋土下位	不明	(15.30)	(12.00)	(3.10)	627.70	媒付着 大
51	1号縫跡埋土下位	不明	(8.40)	(6.00)	1.40	70.40	媒付着
52	1号縫跡埋土上位	不明	(19.30)	(8.40)	(1.60)	209.28	媒付着



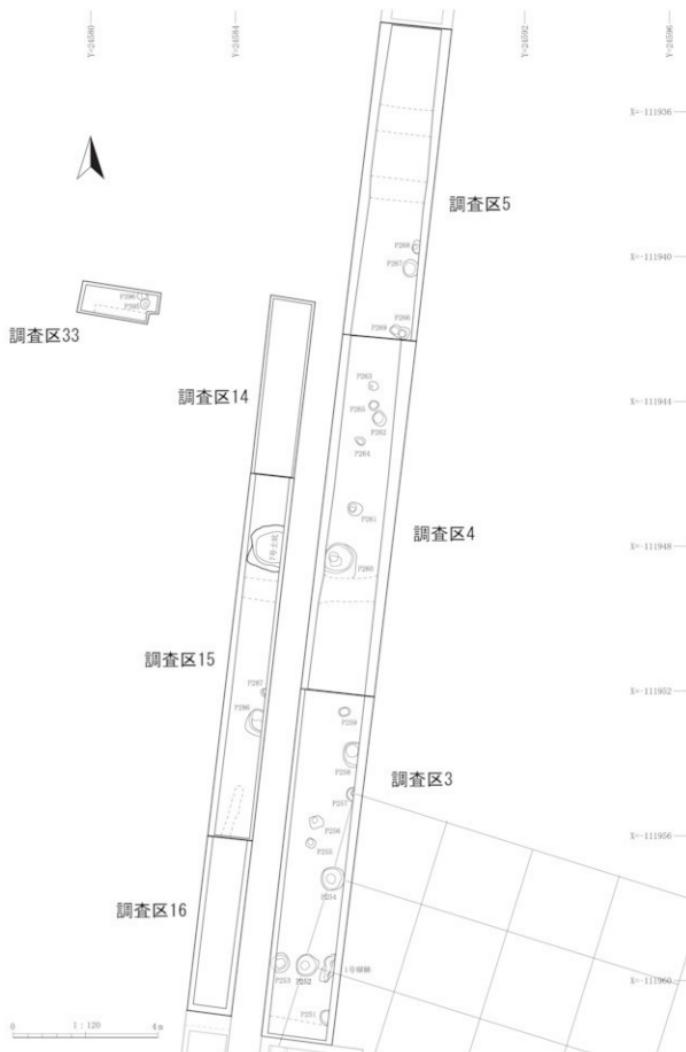
第21図 遺構配置図①



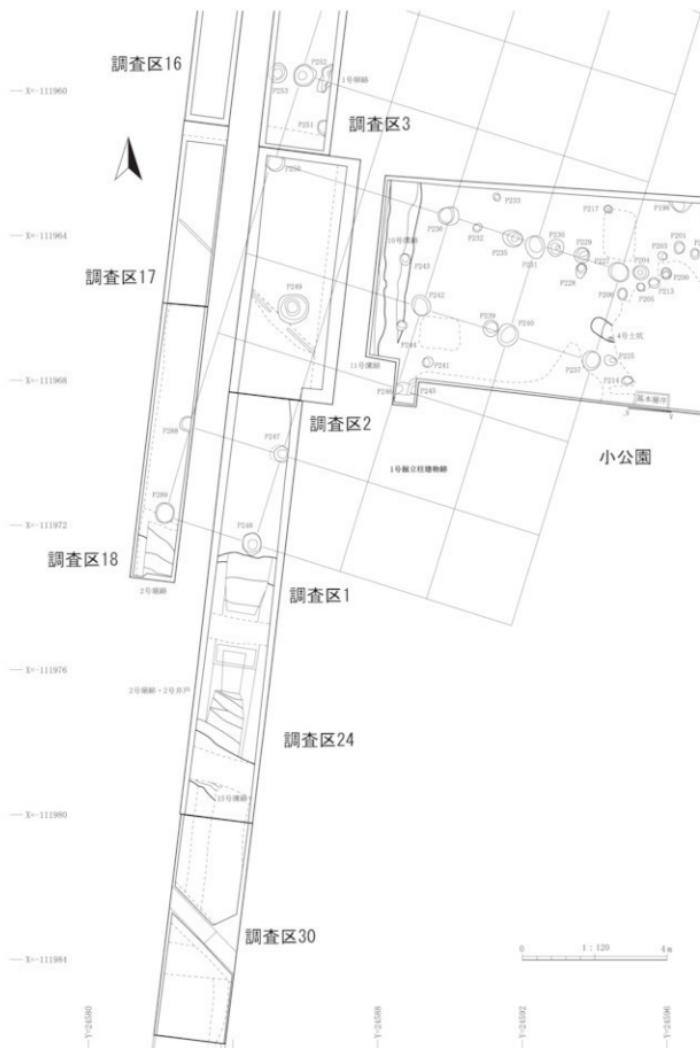
第22図 遺構配置図②



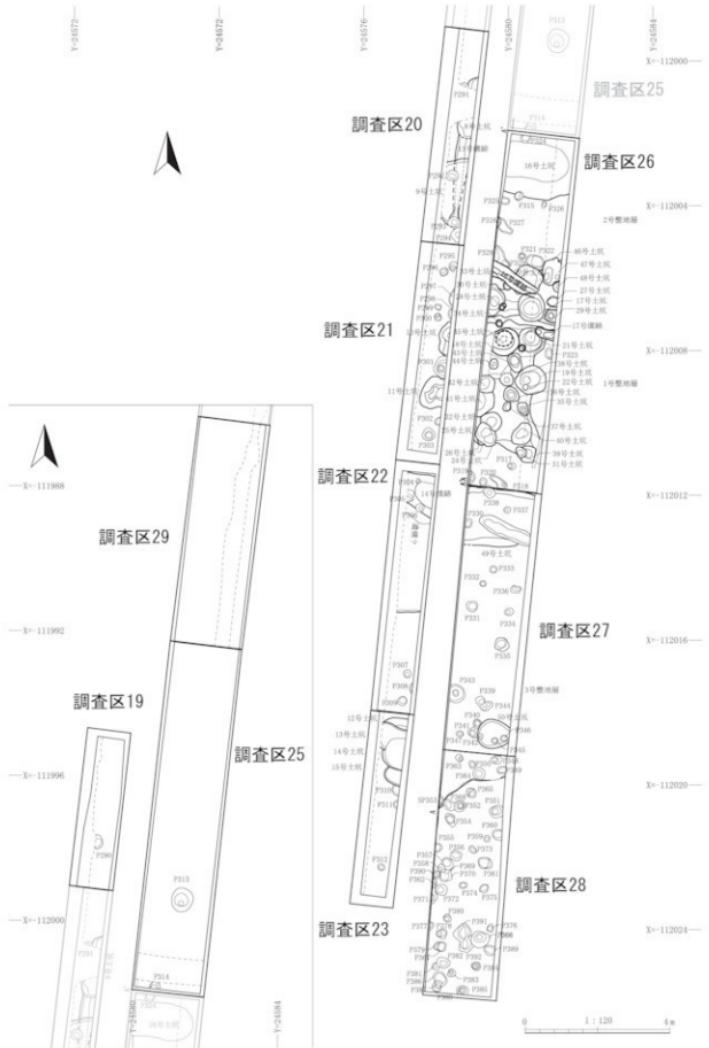
第23図 遺構配置図③



第24図 遺構配置図④



第25回 遺構配置図⑤



第26回 遺構配置⑥



V 伽羅之御所跡第23次調査

1 概 要

遺跡は西磐井郡平泉町平泉字花立地内及び字伽羅楽地内にある。遺跡の範囲は東西約200m×南北約100mと広く、調査区現況は片側1車線の県道となっている。調査区を1~33に分けて調査した。遺跡としての伽羅之御所跡の西端部を細長く細長く調査したことになる。

第23次調査で検出された遺構は堀跡1条、溝跡8条、塙跡1条、井戸跡2基、土坑48基、粘土探掘跡1箇所、整地層1箇所、柱穴153個が検出された。県道及びその下に埋設されていた下水管・水道管などにより遺構の多くが削平されており残りは悪かった。

2 基 本 層 序

遺跡の層序は各調査区により異なる。ここでは県道の下で記録を取った調査区6での土層を挙げる。

I a層 水道管埋設時の土、120cm。水道管は新旧二本入っていた。道路路盤(砂・石)55~65cm。

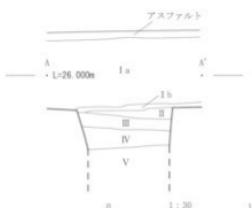
I b層 暗褐色土 砂混じる。近代以降の盛土。5~15cm。

II層 黄褐色砂質土 5~20cm 地山。遺構検出面。

III層 にぶい黄色粘土 5~15cm前後。地山。

IV層 黄褐色砂質土 20~30cm 地山。

V層 浅黄色土 10cm以上 地山。



第27図 基本土層

3 検 出 遺 構

(1) 堀 跡

2号堀跡(第28図、写真図版16・17・23・27)

<位置・検出状況>調査区1・18・24にあり地山面にて検出している。検出段階では他の遺構との重複関係は見られなかった。しかし北側には1号掘立柱建物跡が接するようある。先ずは小トレチを設け、断面で各遺構との重複関係を確認しつつ精査に入った。県道下には上下水道や排水溝が横断していたりで、調査の不可能な場所が多くあった。

<規模・形状>検出面(Ⅱ層)での上幅は5.1m、下幅1.9m、深さが1.8mあり、方向はN 67°・E。断面形は逆台形に近い形状になりそうである。壁面は所々で崩落とみられる凹凸があった。そのせいか上場のラインが非常にわかりにくかった。

<埋土・重複関係>底面付近は自然堆積で植物遺存体を少し含んでいた。埋土中位には地山ブロックを多く含む層が見られる。これは人為堆積の可能性が高く、2号堀跡が廃絶した段階に埋め戻された時の土砂と考えている。埋土の上位は、堀跡が廃絶した後に自然に堆積したものと推察される。重複はしていないが、1号掘立柱建物跡とは接するように近い。堀内の壁面にこの建物跡の柱穴が伸びてく



3 検出遺構

るとも考えて精査したが見つからなかった。一方、2号井戸跡とは重複関係にあり井戸跡よりは新しい。

<出土遺物・時期>（第34図、写真図版35）

かわらけが1370.4 g出土している。手づくねかわらけ（1）の器高はあまり高くないので12世紀後半のものであろう。国産陶器では渥美・常滑産陶器が出土している。

<性格>隣接する無量光院跡の西辺には土壙と堀が現存している。土壙が内側、堀が外側で両者は接するように北北東・南南西方向に延びている（N-10°-E）。この現存する堀・土壙の方向と本遺構の主軸方向は概ね90度で一致している。のことから本遺構は「伽羅御所」と「無量光院」の南辺を区画していた堀跡である可能性が高い。

2号堀跡のすぐ南側には15号溝跡が同じ方向に延びている。見つかった時点では2号堀跡と並行する道路跡の側溝ではないかと考えていたが対になる溝跡が見つからなかった。そのため道路側溝の可能性は低いと言わざるを得ない。しかしながら溝跡の周辺は他と異なり遺構が殆ど検出されなかつた。遺構の無いこと自体に何か意味があるのだろう。ここは建物や井戸、土坑をつくらない場所であった可能性がある。通称「中道」と呼ばれる町道は12世紀からの古道であるとの伝承がある。この遺構空白地帯はと「中道」とほぼ一致する位置関係にある。

（2）掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（第12図、写真図版5）

南北7間、東西4間の柱建物と推定される。22次調査で検出され、今回の調査でもその続きが調査区1~3で見つかっている。これよりも西側へは広がらない。北側は調査区外になるため不明であるが、これ以上建物規模が大きくなることは他の平泉で見つかっている12世紀の掘立柱建物跡の例からも考えにくい。同様の理由から南側へも展開しないであろう。建物の詳細についてはIV章にまとめている。

（3）井戸跡、土坑

井戸跡、土坑については一覧表に整理しているのでここでは代表的な遺構のみ記載している。

1号井戸跡（第33図、写真図版20）

<位置>遺跡北端部にあたる調査区10にあり、地山面で検出された。

<規模・形態>西側の多くのが調査区外にあるため全容は把握できていない。南北方向で上幅2.6m程、深さは10m以上ある。平面形は円形になりそうである。開口部は広いがその下は径12m程になり、ほぼ垂直に下がると考えられる。

<埋土>地山ブロック中小粒を不規則に含む人為堆積である。

<重複関係>なし。

<出土遺物・時期>遺物は出土していないが、周辺の状況から12世紀の可能性がある。

2号井戸跡（第28図、写真図版27・28）

<位置>調査区中央にあたる調査区24にあり、2号堀跡の精査中に検出された。

<規模・形態>西側の多くのが調査区外にあること、2号堀跡と重複していること等から全容は把握できていない。南北方向で下幅1.6m程、深さは12m以上ある。平面形は方形になりそうである。開口部は広がりそうであるがその下は径16m程になり、壁はほぼ垂直に下がっている。底面も平坦であった。

<埋土>最下位層は植物遺存体を含む自然堆積層、その上は粘土ブロックを多く含む人為堆積層であった。

<重複関係>2号堀跡よりも古い。

<出土遺物・時期>遺物は出土していないが、2号堀跡との重複関係から12世紀後半よりも古い遺

構となる。

<その他>嘗ての地表面からは約2.5mとあまり深くはないので、土坑或いはトイレ状遺構の可能性もある。土坑（第29・30図、写真図版21ほか）

12世紀代の土坑とそれ以降のものとに大別される。調査区26及びその周辺からは小土坑が密集して見つかっている。これは粘土採掘跡であるので後述する。ここでは代表的な12世紀の土坑について記載する。

5号土坑は規模の大きな掘立柱建物跡の柱穴の可能性がある。11号土坑からは多量のかわらけ片が出土した。かなり細かく割れたものが多く、中には形を留めていた個体も17点程度あった。かわらけの多くはかわらけの小皿で、かわらけ大皿は僅かしか含まれていなかった。埋土は炭粒を多く含む土で、細かく割れた破片は殆ど接合しない状態であった。この土坑に廃棄される前は、炭混じりの土と共に別の場所にあったのであろう。一括性の極めて高い資料である。何れもⅡ層面での検出である。

（4）溝跡・堀跡

8条の溝跡と1条の堀跡を検出している。12世紀と見られるもの、時期不明・近現代の可能性のあるものとに分けられる。調査区が狭いため全体の分かたる遺構はない。其々の特徴については観察表にまとめた。

1号堀跡は残りが良くないので詳細は不明なのだが、底面付近に板を並べて据えたような痕跡が認められたため堀跡の可能性があると判断した。何れの遺構もⅡ層の地山上面で見つかっている。

（5）その他の遺構

1号粘土採掘跡（第26図、写真図版29ほか）

<位置>遺跡南東部の調査区26を中心に隣の調査区21までひろがっている。地山面で検出した。

<規模・形態など>狭い調査区であるため正確な規模は分からぬが東西4m、南北7mの範囲に亘り0.6～1.0m程、深さ0.4～0.6m程の土坑が互いに接するように密集して分布している。確認した土坑の数は18基である。何れの土坑も基盤層中に部分的に見られる粘土層を掘り込んでいた。粘土層よりも深い部分まで掘り込まれる土坑は無かった。

<埋土>土坑群は地山ブロックを主体とする土で埋め戻されている。

<重複関係>それぞれの土坑間の重複関係はあまりにも複雑なため把握できなかった。16号溝跡も本遺構より新しいものの、大きな時期差はないようである。

<出土遺物・時期>かわらけ細片が出土している。12世紀。

<その他>平泉拠点地区では粘土採掘跡の事例は殆ど無い。

1～3号整地層（第33図、写真図版31）

1号粘土採掘跡のすぐ上面にある。範囲としては粘土採掘跡を中心南北12m、東西2m以上となる。個々の土坑も埋め戻されているが、粘土採掘跡全体も厚さ0.1～0.2mの土砂で埋め戻されていた。この部分を1号整地層、粘土採掘跡よりも北側で16号土坑などを覆っているのが2号整地層、更に北側の調査区27にあるものを3号整地層と分けているが、全て同じ地業と考えられそうである。時期は含まれるかわらけ片から12世紀である。

（6）柱穴

153個の柱穴をⅡ層面で検出した。調査区が狭いため全容は不明であるものの多くは掘立柱建物跡を構成する可能性が高い。詳しい用途を想定できたものはない。特徴については計測表に整理した。

4 出 土 遺 物

遺構内外から 12 世紀に属する遺物としてかわらけ、国産陶器、中国産磁器、羽口、鉄釘、木製品が、近世以降の遺物として錢貨が出土している。遺構内出土を中心に代表的な遺物を掲載しているが、個々の特徴については遺物観察表に整理した。

(1) か わ ら け (第 34・35 図、写真図版 35・36)

遺構内外から 671.40 g 出土している。その中から遺構内出土の 51 点を掲載した。2 号塙跡からはごく微量しかかわらけが出土していない。1 の手づくねかわらけ大皿は口径が 14.4 cm あるが、器高は 2.45 cm とあまり高くはない。6 号土坑出土の 3 は底径が広く器高も高くてやや古手の可能性がある。11～30 は 11 号土坑に廃棄されていた一括資料である。出土量の主体はロクロかわらけの小皿、次いで手づくねかわらけの小皿、そしてロクロかわらけの大皿の順で手づくねかわらけ大皿は細かく割れた破片の中にあるかもしれないが、はっきりと分類できる個体は無かった。ロクロかわらけの小皿、手づくねかわらけの小皿は共に歪みの大きな個体が目立った。中には実際に使うにはかなり不安定なものも多い。31～51 は遺構内出土であるが口径は 13 cm を超えるやや大きなものもあるが、器高は低い個体が殆どで何れも 12 世紀後半の可能性が高い。

個々の特徴は観察表にまとめている。

(2) 陶 磁 器 (第 35～37 図、写真図版 37・38)

国産陶器は渥美産・常滑産・須恵器系陶器があり、出土量は渥美産・常滑産陶器が大半を占め、須恵器系陶器は少量である。甕・壺類が殆どで鉢類がごく僅かに見られる。碗類は出土していない。中國産磁器は白磁が主体で青磁が 1 点だけ出土している。青白磁や陶器はない。白磁は壺類が最も多く、次いで碗類となる。青磁は高台の無い碗である。

各個体の特徴は観察表に整理した。

(3) そ の 他 (第 37 図、写真図版 38)

89 は羽口で外面には溶解したものが付着している。90 は鉄釘であろう。91 は杉を使った部材であるが用途は不明である。端部も欠損はしていないと考えているが自信はない。92～95 は錢貨である。其々の遺物については観察表を作成しその特徴を記した。

第8表 塙跡・溝跡・塙跡観察表

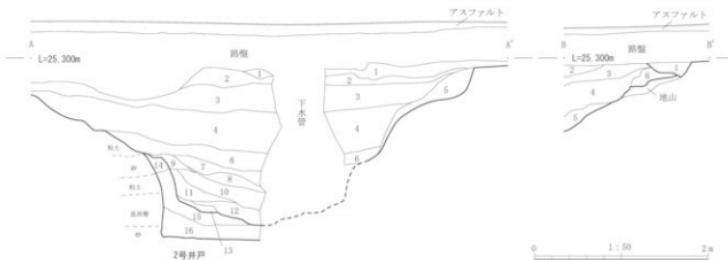
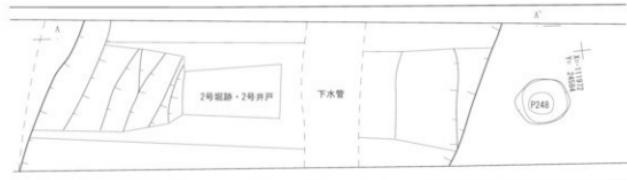
計測値の単位: m

遺構	調査区	規則	長さ / 幅 / 深さ	方向	地土、重複など	出土遺物	時期	その他
2号塙跡	1 24	-	/5.1/1.8	N-65°-W	堆土の一部は砂と泥による自然堆積 堆土中位が人為堆積 堆積、堆土上位は植物質を含む自然堆積となる。堆土下位 が削り取られた段階のものか、遺物は少ない	かわらけ、国産陶器 12世紀後半		
1号溝跡	3	(0.8) / - / -		N-25°-E	人為堆積		12世紀と見られる	
10号溝跡	小公園	(4.0) / (1.0) / -0.3		N-7°-E	黒褐色の土の草履			
11号溝跡	小公園	(4.0) / (1.5) / -0.3		N-7°-E	綠黑色の土の草履			
12号溝跡	8	(2.5) / -0.8 / -0.1		N-34°-E	人為堆積		時期不明 近現代の可能性も	
13号溝跡	20	(3.0) / (0.6) / -			人為堆積		12世紀と見られる	範囲が不明確
14号溝跡	22	(1.5) / (1.1) / -0.2		N-53°-W	灰褐色や水かけ跡片を含む人為堆積		12世紀	
15号溝跡	24	(1.0) / (0.5) / -0.2		N-52°-W	自然堆積		12世紀と見られる	
16号溝跡	26	(2.5) / -0.4 / -0.2		N-60°-W	砂と泥からなる自然堆積		12世紀と見られる	
17号溝跡								欠番
18号溝跡	31 32	(10.0) / -0.5		N-60°-W	地山ブロックと板根を不規則に含む人為堆積		時期不明 近現代の可能性も	

2号堀跡



2号堀跡



2号堀跡-A'

1. 10YR4/1 棕灰色土
2. 10GB2/1 青黑色土
3. 10GB3/1 墓綠色土
4. 10YR4/2 黄褐色土
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質土
6. 2.5Y4/1 黄褐色土
7. 2.5Y7/2 黄褐色粘土ブロック
8. 10YR4/1 棕灰色土

9. 5Y7/2 灰白色粘土
10. 5Y4/1 灰色泥

11. 5Y6/4 オリーブ黄色粘土ブロック
12. 5Y5/1 灰色土
13. 5Y6/2 灰オーリーブ土
14. 5Y6/1 灰色砂
15. 10Y7/2 灰白色粘土ブロック
16. 5Y4/1 灰色土

2号堀跡-B'

1. 2.5Y7/4 淡黄色粘土
2. 10YR5/1 棕灰色土
3. 10YR4/1 棕灰色土
4. 10YR4/2 棕灰色土
5. 10YR4/2 淡黃褐色土
6. 注記無

小粒利と砂を不規則に含む 現代 粘性やや有 細まっている…2号堀跡

自然堆積 12C 粘性有 細まっている…2号堀跡

酸化鉄斑に有り 粒状5% 自然堆積 12C 粘性有 細まっている…2号堀跡

酸化鉄斑に有り 小縫1% 自然堆積 12C 粘性有 細まっている…2号堀跡

褐色灰土ブロック少量 自然堆積 12C 粘性有 細まっている…崩落土

褐色灰土20% 人为堆積 粘性やや有り 細まっている…2号堀跡

褐色灰土20% 人为堆積 粘性有 細まっている…2号堀跡

自然堆積 腐葉が崩れて入ったのか

粘性やや有 細まつやや有…2号堀跡

及び灰白色砂半# 自然堆積 粘性やや有 細まりやや有…2号堀跡

灰白色砂と薄い層を形成している 植物遺物少量 自然堆積

粘性やや有 細まりやや有…2号堀跡

灰色土40% 人为堆積 粘性やや有 細まりやや有…2号堀跡

灰白色砂10% 植物細片5% 自然堆積 粘性やや有 細まり有…2号堀跡

自然堆積か人为堆積かは不明 粘性無 細まりやや有…2号井戸

褐色土20% 人为堆積 粘性有 細まっている…2号井戸

植物細片多量 自然堆積 粘性有 細まりやや弱…2号井戸

黄色土ブロック10~20% 粘性有 細まっている…近代復原

自然堆積 粘性やや有 細まりやや有

自然堆積 粘性やや有 細まりやや有

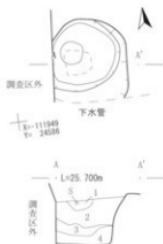
酸化鉄を不規則に含む 供物少量 円錐少量 人为堆積 粘性やや有 細まりやや有

酸化鉄を含む 自然堆積 粘性有り 細まっている

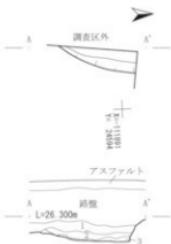
第28図 堀跡、井戸跡①



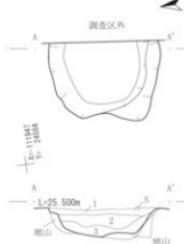
P260(=5号土坑)



6号土坑



7号土坑



P260(=5号土坑)

1. 10YR4/2 灰黄色粘土 黏粒微量、粘性有 締まっている
2. 10YR6/3 黄褐色粘土ブロック 乾燥粘土ブロック20%、灰白色粘土ブロック10% 人為堆積 粘性有 締まっている
3. 10YR4/1 灰白色粘土ブロック 乾白色粘土ブロック20%、粘性有 締まっている
4. 10YR8/2 灰白色粘土 灰白色粘土10% 人為堆積 粘性強 締まっている

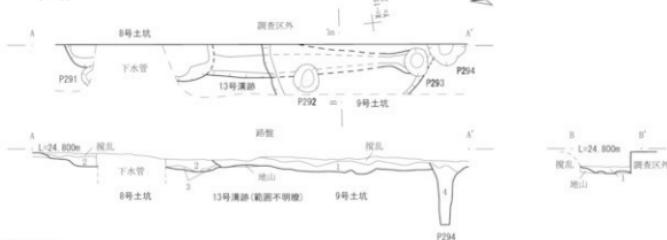
6号土坑

1. 7.5YR4/1 灰色粘土質土 粒粒微量、粘性有 締まっている 1路盤(県道工事の影響を受けている)
2. 10YR6/3 にない 黄褐色粘土ブロック 乾燥粘土ブロック20%、灰粒10% 人為堆積 粘性有 締まっている
3. 10YR8/2 灰白色粘土ブロック その間ににない黄褐色粘土ブロックが入る 乾粒微量 粘性有 締まっている

7号土坑

1. 2.5YR4/4 淡黄色粘土 内縫隙微量、粘性有 締まっている 土埋土ではない
2. 10YR6/6 明黄色粘土 並びにない黄褐色粘土 人為堆積 12Cであろう 粘性有 締まっている
3. 10YR8/1 黄褐色粘土ブロック 黄褐色土地山ブロック40% 乾粒極微量 人為堆積 12Cであろう 粘性有 締まっている

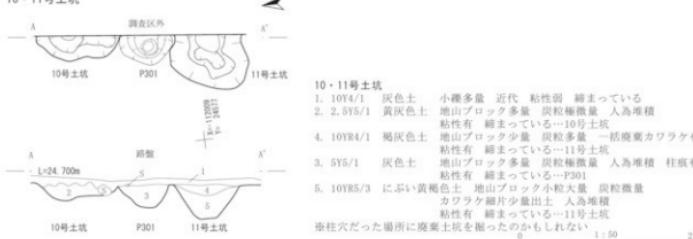
8・9号土坑



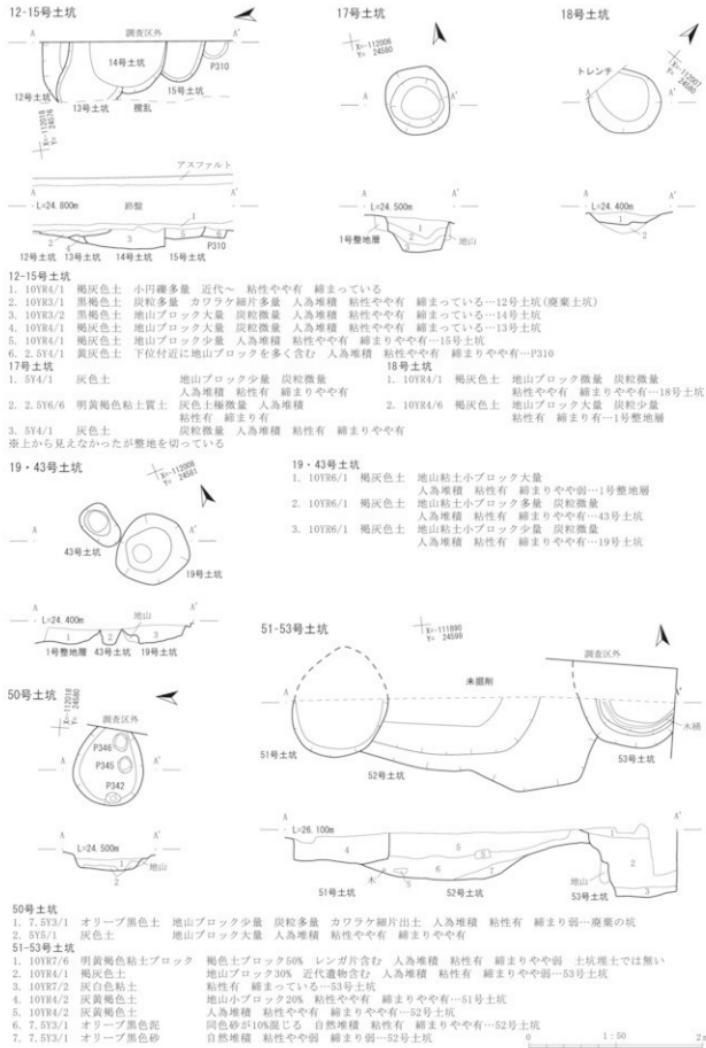
8・9号土坑

1. 10YR8/1 黄褐色土 粒粒極微量、粘性有 締まっている…9号土坑
2. 2.5Y5/1 黄褐色土 粒粒多量、人為堆積 粘性有 締まっている…8号土坑
3. 2.5Y7/6 明黄色粘土 黄褐色粘土ブロック少量、人為堆積 粘性有 締まっている…8号土坑
4. 2.5Y8/1 黄灰色土 黄褐色土との混土 人為堆積 粘性やや有 締まりやや有…P294

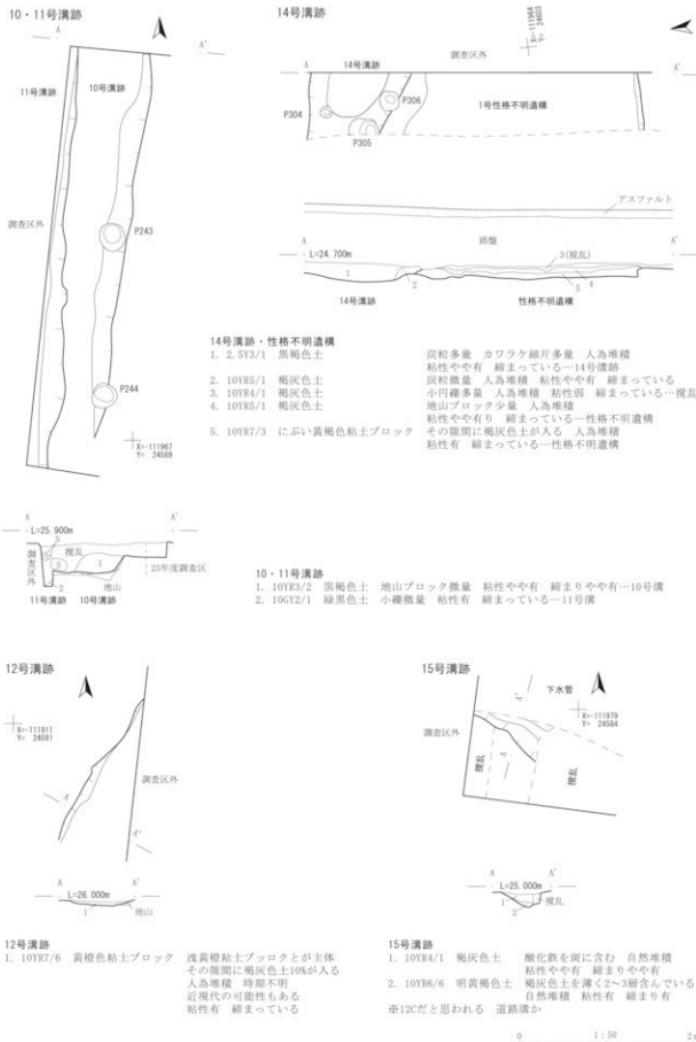
10・11号土坑



第29図 土坑①

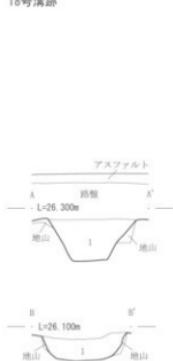


第30図 土坑②



第31図 溝跡①

18号溝跡

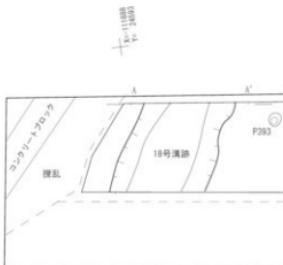
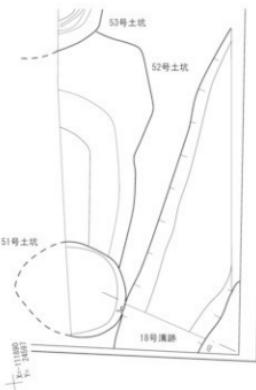


18号溝跡A-A'

1. 10YR7/6 黄褐色粘土ブロック 棕色土ブロック20%
人為堆積 時期不明 黏性有 繋まっている

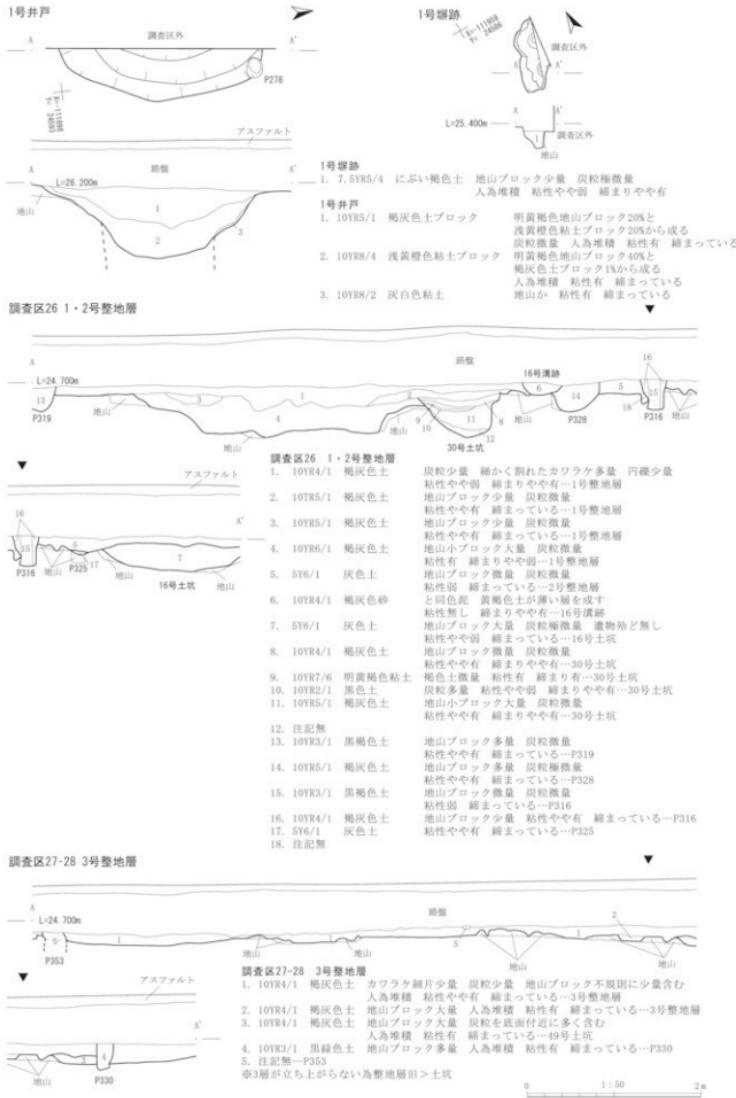
18号溝跡B-B'

1. 10YR5/2 灰黄褐色土ブロック 浅黄褐色粘土ブロック30% 灰粒極微量
人為堆積 黏性やや有 繋まっている

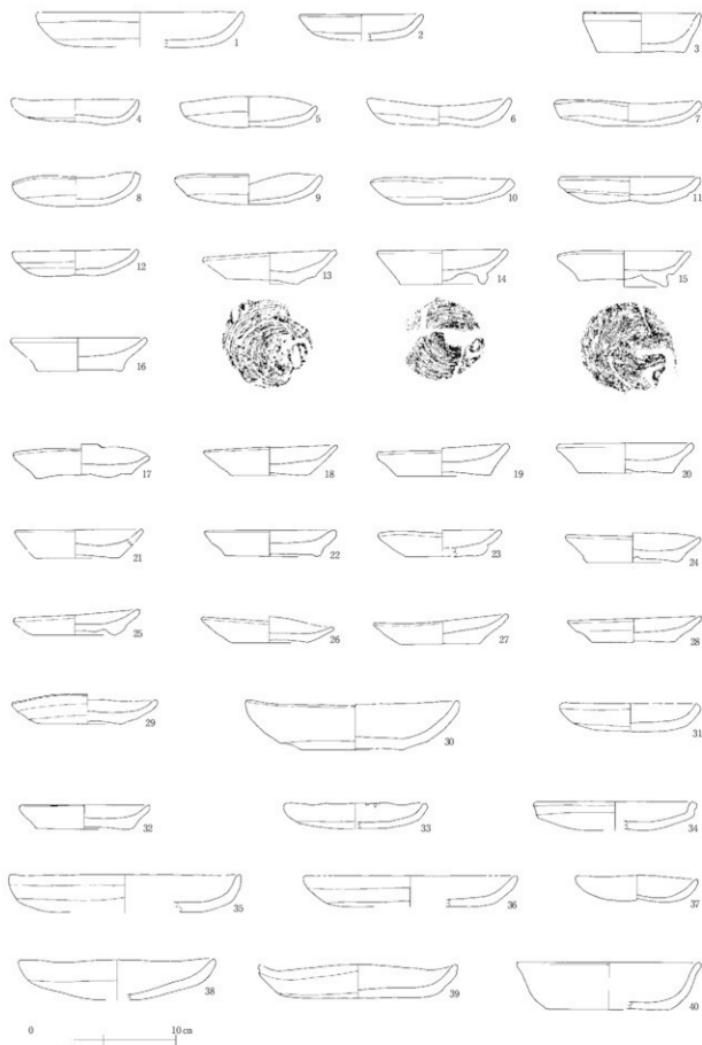


0 1:50 2m

第32図 溝跡②



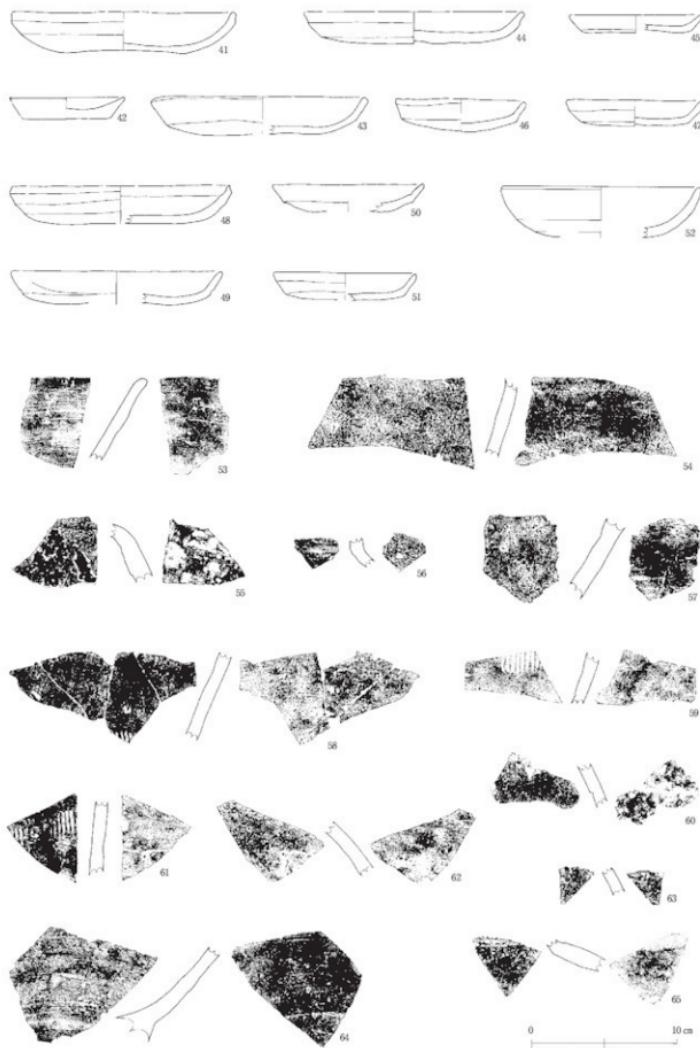
第33図 井戸跡②、その他の遺構



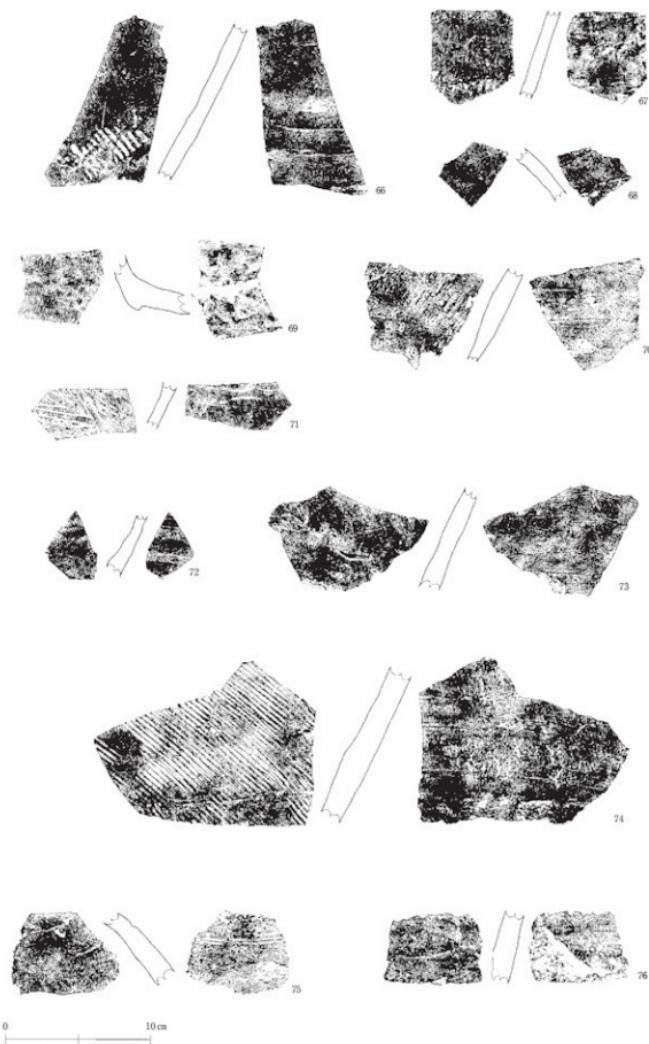
第34図 出土遺物①



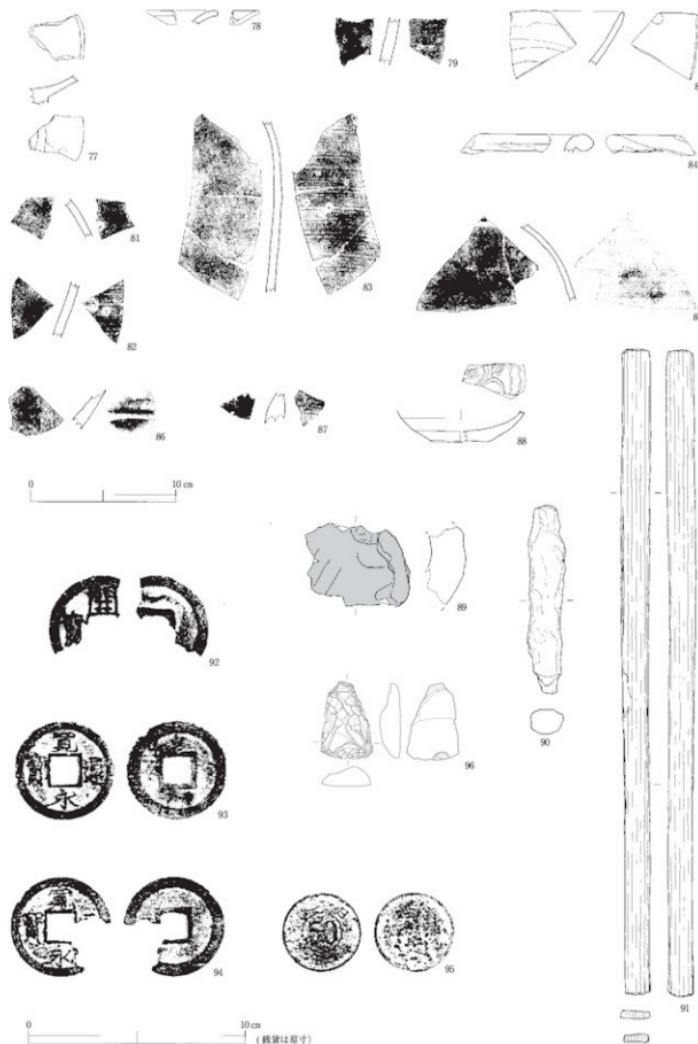
4 出土遺物



第35図 出土遺物②



第36図 出土遺物③



第37図 出土遺物④

第9表 井戸跡・土坑観察表

計測値の単位:m

遺構名	調査区	規格 長軸/短軸/深さ	形状 円形 不明	埋 土	出土遺物 時期	その他
1号井戸跡	10	26/-/10	円形 不明		12世紀	
2号井戸跡	24	/ (12) /16	方形 平頭	上位は灰白色粘土ブロックによる人為堆積。 底面付近は植物質纖片多量に含む自然堆積	12世紀	土坑やトイレ遺構 の可能性も
5号土坑	4	14/- (09) /05	円形 平頭	地山ブロックを不規則に含む人為堆積	12世紀	柱穴
6号土坑	10	/ /02	不明	にふい黄褐色ブロックによる人為堆積	不明	
7号土坑	15	20/- (14) /03	長円形 平頭	地山ブロックに炭化も混ざる人為堆積	12世紀	
8号土坑	20	28/- (08) /02	不明 平頭	炭粒を多量に含む人為堆積	12世紀	
9号土坑	20	6.0/- (20) /02	不明 平頭	褐灰色土の單層		
10号土坑	21	/09/03	不明 凹凸小 円形	炭粒を多量に含む人為堆積	12世紀	
11号土坑	21	/07/04	不明 平頭	地山ブロックを不規則に含む人為堆積	かわらけ 12世紀	
12号土坑	23	12/-08/01	不明 平頭	かわらけの繊片が炭化とと共に発見されていた。 この土坑に発見される前から既に破片であつた個体も多い。儀礼的な廃棄ではないようだ	ロクロかわら けの小皿主体 12世紀	かわらけは一括廃 棄資料
13号土坑	23	/ /01	不明	人為堆積	12世紀	
14号土坑	23	(09) /09/02	長円形 平頭	地山ブロックを多量に含む黒褐色土 人為堆積	12世紀	
15号土坑	23	0.8/- (04) /01	円形 平頭	人為堆積	12世紀	
16号土坑	26	(30) /16/03	長円形 平頭	地山ブロックを多量に含む黒褐色土 人為堆積	12世紀	
17号土坑	26	0.8/07/04	不整円形 平頭	炭粒を不規則に含む人為堆積	12世紀	
18号土坑	26	0.8/08/01	不整円形 平頭	褐灰色土の單層	12世紀	
19号土坑	16	07/07/02	円形 平頭	人為堆積	12世紀	
30号土坑	26	10.0/09/04	円形 丸底	地山ブロックを多量に含む人為堆積	12世紀	
38号土坑	26	0.8/- (06) /02	不明 平頭	人為堆積	12世紀	
50号土坑	27	10.0/09/02	円形 平頭	かわらけ繊片含む人為堆積	12世紀	魔棄土坑
51号土坑	32	12/-/03	長円形 平頭	地山ブロックを少量含む人為堆積	近世以降	
52号土坑	32	(27) / /05	不明 平頭	人為堆積	近世以降	
53号土坑	32	11/-/09	円形 平頭	人為堆積 練瓦	近代以降	

第10表 柱穴観察表

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P243	32.0	28.2	31.3	P257	39.0	(18.2)	33.6	P271	36.5	36.2	28.7
P244	29.2	26.4	25.5	P258	68.8	(40.9)	49.5	P272	31.3	30.8	26.7
P245	(39.0)	(32.2)	21.7	P259	30.6	23.9	16.7	P273	(45.0)	40.9	31.7
P246	(39.2)	(35.6)	16.2	P260	(96.7)	(99.0)	62.1	P274	(17.8)	24.0	14.2
P247	(42.1)	43.8	39.1	P261	39.7	34.1	36.5	P275	20.5	18.8	15.5
P248	62.4	51.3	49.5	P262	38.0	34.6	37.5	P276	43.0	(35.8)	16.4
P249	85.2	81.1	41.5	P263	25.0	22.6	10.2	P277	24.8	23.2	14.4
P250	(50.1)	50.0	29.1	P264	29.0	21.3	10.5	P278	22.7	17.5	23.0
P251	39.5	(21.7)	42.2	P265	25.3	23.5	12.7	P279	21.5	20.3	14.1
P252	63.1	59.0	31.7	P266	33.1	(27.8)	37.5	P280	35.9	33.1	32.1
P253	54.8	(52.9)	50.9	P267	46.9	(44.2)	40.4	P281	20.7	19.1	10.2
P254	64.1	62.9	41.0	P268	36.9	(20.1)	40.2	P282	17.8	14.2	27.6
P255	26.2	23.9	7.7	P269	(28.3)	26.6	25.2	P283	29.3	23.1	10.2
P256	37.7	32.2	16.2	P270	10.6	9.8	5.6	P284	46.3	44.3	28.7

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P285	25.4	24.1	11.3	P323	33.6	20.7	46.9	P361	41.2	32.7	24.8
P286	71.8	(41.5)	46.1	P324	24.4	(23.2)	21.4	P362	26.8	(10.8)	13.2
P287	21.2	(13.3)	24.9	P325	(22.8)	18.0	15.9	P363	20.0	17.5	21.3
P288	42.7	(28.7)	31.2	P326	17.8	12.4	17.3	P364	33.0	30.3	23.8
P289	55.4	50.6	48.4	P327	(51.6)	27.9	16.1	P365	27.4	24.1	38.3
P290	37.7	(22.1)	62.0	P328	(33.1)	(33.7)	19.0	P366	46.6	44.8	58.2
P291	20.5	(8.5)	8.3	P329	(28.0)	(16.1)	14.2	P367	25.8	21.9	22.0
P292	31.0	28.9	70.2	P330	24.2	21.1	14.0	P368	(32.0)	23.3	24.1
P293	31.5	26.8	65.6	P331	31.2	29.9	18.5	P369	-	(14.2)	11.2
P294	43.4	(23.8)	66.7	P332	16.5	15.8	14.0	P370	(26.5)	30.8	10.2
P295	27.1	22.5	45.1	P333	19.8	19.2	6.6	P371	44.2	(13.5)	16.0
P296	22.9	20.7	22.9	P334	24.2	19.1	17.3	P372	31.5	29.3	42.8
P297	54.3	(12.5)	5.3	P335	38.2	38.0	36.7	P373	23.3	16.7	17.6
P298	34.2	(10.5)	5.2	P336	26.1	20.2	15.9	P374	21.1	16.0	25.3
P299	16.9	14.7	5.0	P337	17.8	16.7	28.0	P375	23.0	21.8	21.0
P300	21.6	18.4	19.9	P338	34.5	26.4	42.6	P376	21.2	16.4	10.5
P301	60.2	(34.9)	34.5	P339	(23.2)	22.7	44.6	P377	(19.1)	(16.9)	26.6
P302	22.8	(13.4)	5.8	P340	26.6	(21.0)	30.3	P378	28.7	27.1	22.3
P303	36.7	35.1	70.9	P341	30.2	(28.8)	19.9	P379	23.9	(13.3)	12.5
P304	13.3	13.2	5.9	P342	16.8	11.9	27.2	P380	22.4	19.3	33.0
P305	33.8	(17.9)	13.0	P343	51.5	(45.5)	39.3	P381	18.5	(17.7)	13.8
P306	20.6	20.5	9.2	P344	35.6	21.3	19.5	P382	35.5	26.5	14.5
P307	22.0	19.6	43.0	P345	18.7	16.1	9.1	P383	21.8	20.4	33.7
P308	31.0	(8.8)	13.0	P346	20.3	15.0	9.0	P384	23.9	22.6	22.1
P309	25.6	25.2	37.1	P347	19.9	16.2	10.9	P385	(29.7)	31.7	40.0
P310	34.0	(22.2)	6.5	P348	31.1	21.4	14.1	P386	40.3	32.2	18.9
P311	19.5	(11.5)	39.2	P349	(23.5)	19.0	7.8	P387	19.8	16.0	25.1
P312	19.7	17.8	25.8	P350	20.0	15.9	16.3	P388	(25.4)	23.8	17.3
P313	65.0	57.7	95.1	P351	(38.9)	36.4	25.7	P389	(32.0)	27.4	20.6
P314	28.3	(17.1)	23.3	P352	33.2	30.7	31.0	P390	(21.8)	19.3	20.2
P315	24.9	22.4	16.3	P353	26.9	19.9	28.7	P391	46.5	39.0	43.2
P316	24.3	(8.0)	20.0	P354	40.2	24.2	48.1	P392	49.1	38.3	65.5
P317	22.1	19.1	10.5	P355	(24.1)	20.6	17.9	P393	15.3	13.8	20.8
P318	57.3	18.0	17.0	P356	31.4	26.3	26.3	P394	13.9	12.2	10.0
P319	35.8	(14.7)	16.1	P357	33.8	(28.4)	39.4	P395	26.7	23.0	11.8
P320	23.3	19.4	22.2	P358	23.1	18.4	28.2	P396	28.0	(17.2)	8.1
P321	21.0	18.4	18.1	P359	17.7	17.5	8.0				
P322	48.5	33.6	14.4	P360	(25.8)	27.0	39.3				

第11表 かわらけ觀察表

規範 番号	仮番号	出土位置、層位	種類	調整	計測値(cm)			備考
					口径	底径	器高	
1	30	調査区24 2号廻路埋土	手づくね大	1段ナデ面取り	(14.40)		(24.5)	
2	31	調査区24 2号廻路埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	(8.60)		(18.0)	
3	1	調査区16 6号土坑埋土	ロクロ小	ロクロ	(8.00)	(6.00)	27.5	底部尖切痕
4	16	調査区21 11号土坑埋土	手づくね小	手づくね小	(8.90)		18.0	
5	11	調査区21 11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ	8.90		21.0	口部に付着物 やや歪
6	2	調査区21 11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ	(10.00)	(5.60)	19.5	
7	24	調査区21 11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	(10.20)		18.0	
8	26	調査区21 11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	(8.80)		23.0	
9	3	調査区21 11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	10.40		22.0	
10	23	調査区21 11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	10.00		19.0	
11	12	調査区21 11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	9.80		18.5	



掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	調整	計測値(cm)			備考
					口幅	底径	器高	
12	21	調査区21 11号土坑埋土	手づくね小	2段ナデ	8.80		180	
13	17	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.30	6.20	235	底部切痕 豊み大 風化
14	22	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.00	(5.80)	235	底部切痕
15	15	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.10	5.90	260	豊み大 風化大
16	13	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.50	5.80	230	底部切痕 風化
17	9	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.40	6.60	230	豊み大 風化している
18	19	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.30	5.40	210	風化
19	7	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.10	6.30	220	風化している
20	8	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.50	6.50	210	底部切痕 風化
21	20	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		8.90	5.70	(1.95)	風化
22	4	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.10	6.20	185	底部切痕
23	27	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		8.50	(5.30)	180	底部切痕豊み 風化
24	10	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.40	6.30	200	底部切痕 豊み 風化
25	5	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		8.80	5.90	180	豊み大 風化
26	14	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.10	5.10	180	底部切痕豊み大 風化
27	18	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.40	5.50	205	底部切痕
28	6	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		9.30	5.80	180	風化
29	25	調査区21 11号土坑埋土	ロクロ小		10.10	5.70	205	底部切痕 豊み
30	28	調査区23 12号土坑埋土	ロクロ大		14.80	7.10	340	底部切痕 風化
31	29	調査区23 13~14号土坑	手づくね小	1段ナデ面取り	9.70		200	埋土出土
32	41	調査区26 1号整地層	ロクロ小		9.00	6.50	170	底部切痕
33	47	調査区27 49号土坑埋土	手づくね	1段ナデ	(10.00)		180	
34	52	調査区27 49号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	(11.20)		200	
35	49	調査区27 50号土坑埋土	手づくね大	2段ナデ	(16.10)		265	風化
36	32	調査区27 P.313埋土	手づくね大	2段ナデ?	(14.80)		(2.15)	
37	33	調査区27 P.313埋土	手づくね小	1段ナデ?	8.45		190	内面に煤付着
38	37	調査区27 P.361埋土	手づくね大	1段ナデ	(13.70)		(2.80)	
39	35	調査区28 P.375埋土	手づくね大	1段ナデ面取り	(13.80)	(10.00)	235	豊み
40	34	調査区28 P.377埋土	ロクロ大		(12.80)	(8.80)	325	底が大きい
41	36	調査区28 P.382埋土	手づくね大	1段ナデ面取り	(15.50)	(8.00)	290	スコボ
42	38	調査区28 P.382埋土	ロクロ小		7.90	(6.00)	200	底部切痕 風化
43	40	調査区26 1号整地層上層	手づくね大	1段ナデ面取り	15.00		270	
44	39	調査区26 1号整地層上層	手づくね大	2段ナデ	(15.20)		220	
45	44	調査区26 1号整地層上層	手づくね小	1段ナデ	(9.20)		125	
46	42	調査区26 1号整地層上層	手づくね小	1段ナデ面取り	9.00		230	
47	43	調査区26 1号整地層上層	手づくね小	2段ナデ	(9.40)		180	
48	50	調査区27 整地層	手づくね大	2段ナデ面取り	(15.00)		260	
49	46	調査区27 整地層	手づくね大	1段ナデ	(14.60)		230	
50	48	調査区27 整地層	手づくね	1段ナデ	(10.40)		190	
51	45	調査区27 整地層	手づくね小	2段ナデ	(9.90)		190	
52	51	調査区27 整地層	ロクロ大		(13.80)		(3.50)	

第12表 陶器観察表

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	器種	部位	年代	備考
53	67	調査区24 2号瓶路埋土	常滑	鉢	口縁部	12世紀	
54	55	調査区1 2号瓶路埋土	常滑	壺類	胴部	12世紀	
55	53	調査区1 2号瓶路埋土	常滑	壺類	肩部?	12世紀	
56	68	調査区24 2号瓶路埋土	常滑	壺	口縁部	12世紀	
57	66	調査区24 2号瓶路埋土	常滑	壺類	胴部	12世紀	
58	104	調査区27 整地層・49号土坑埋土	常滑	壺	胴部	12世紀	
59	96	調査区27 50号土坑埋土	常滑	壺	胴部	12世紀	
60	111	調査区28 (路端外) 52号土坑	常滑	壺	胴部	12世紀	埋土出土
61	108	調査区28 P348	常滑	壺	胴部	12世紀	
62	109	調査区28 P348	常滑	壺	胴部	12世紀	
63	110	調査区28 P377	常滑	壺	胴部	12世紀	



4 出土遺物

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	器種	部位	年代	備考
64	81	調査区 26 1号整地層上層	常滑	鉢	底部付近	12世紀	
65	94	調査区 27 整地層	常滑	盃	胴部	12世紀	
66	65	調査区 24 2号幅路埋土	深美	要類	胴部	12世紀	
67	54	調査区 1 2号幅路埋土	深美	要類	胴部	12世紀	
68	70	調査区 24 2号幅路埋土	深美	盃	胴部	12世紀	
69	82	調査区 26 1号整地層上層	深美	要類	胴部	12世紀	
70	85	調査区 26 1号整地層上層	深美	要類	胴部	12世紀	
71	84	調査区 26 1号整地層上層	深美	要類	胴部	12世紀	
72	62	調査区 22 14号溝埋土	須恵系	要類	胴部	12世紀	
73	78	調査区 26 1号整地層上層	須恵系	要類	胴部	12世紀	
74	56	調査区 4 P262 埋土	須恵系	要類	胴部	12世紀	
75	88	調査区 26 16号溝路埋土	不明	要類	胴部	12世紀	
76	89	調査区 26 16号溝路埋土	不明	不明	胴部	12世紀	
77	69	調査区 24 2号幅路埋土	白磁	碗	底部	12世紀	
78	63	調査区 23 12号土坑埋土	白磁	碗	V	口縁部	12世紀
79	91	調査区 27 50号土坑埋土	白磁	四耳壺	胴部	12世紀	
80	64	調査区 22 14号溝路埋土	白磁	碗	口縁部	12世紀	
81	97	調査区 27 整地層	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部	12世紀	
82	86	調査区 26 1号整地層上層	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部	12世紀	
83	87	調査区 26 1号整地層上層	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部	12世紀	
84	93	調査区 27 整地層	白磁	四耳壺Ⅲ	口縁部	12世紀	
85	79	調査区 26 1号整地層上層	白磁	四耳壺か水注Ⅱ	胴部	12世紀	
86	98	調査区 27 整地層	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部	12世紀	
87	59	調査区 14 道横外	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部?	12世紀	
88	106	調査区 28 P254	青磁	碗	底部	12世紀	
71	調査区 26 P319 埋土	須恵系	不明	胴部	12世紀		

第13表 烏口観察表

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	重量 (g)	備考
89	117	調査区 32 (路跡外) 52号土坑埋土	羽口	332	

第14表 木製品観察表

計測値: cm

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
91	119	調査区 24 2号幅路埋土	不明	44.40	210	0.60	226	

第15表 金属製品観察表

計測値: cm

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
90	118	調査区 21 11号土坑埋土	刀子?	0.870	1.80	1.10	29.30	

第16表 銭貨観察表

計測値: cm、 g

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	銘種	外径縦	外径横	内径	厚さ	重さ	材質	備考
92	115	調査区 26 1号整地層上層	開元通宝?	1.83	1.80	0.59	0.13	0.70	銅	
93	114	調査区 26 推疊	寛永通宝	2.30	2.30	0.60	0.10	2.30	銅	
94	116	調査区 32 道傍外	寛永通宝	2.33	2.34	0.60	0.09	1.60	銅	
95	113	調査区 2 道傍外	50銭	1.91	1.89		0.16	2.60	銅	昭和20年

第17表 石器類観察表

計測値: cm、 g

掲載番号	仮番号	出土地点、層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考
96	112	調査区 24 2号幅路 埋土	石泡	3.15	3.55	1.7	25.2	



VI 自然科学分析

伽羅之御所跡第23次調査における放射性炭素年代(AMS測定) (株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

伽羅之御所跡(第23次調査)は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字伽羅窯(北緯38°59'25"、東経141°7'1")に所在し、北上川西岸の河岸段丘面に立地する。測定対象試料は、柱穴や溝跡等から出土した炭化物12点である(表1)。

2 測定の意義

遺跡内に位置する複数の遺構の前後関係および遺跡の継続期間を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ビンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸・アルカリ・酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイルにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(%)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と記注する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として測る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。



(4) 暈年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暈年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暈年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma = 68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暈年較正年代を表す。暈年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によって結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暈年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暈年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暈年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。試料12点のうち、No. 2を除く11点の¹⁴C年代は、 1070 ± 20 yrBP (No. 8)から 890 ± 20 yrBP (No. 6)の狭い範囲にまとまっている。暈年較正年代(1σ)は、最も古いNo. 8が $907 \sim 1015$ cal ADの間に2つの範囲、最も新しいNo. 6が $1050 \sim 1187$ cal ADの間に3つの範囲で示される。

No. 2の¹⁴C年代は 60 ± 20 yrBP、暈年較正年代(1σ)は $1706 \sim 1914$ cal ADの間に3つの範囲で示され、他の11点より大幅に新しい。なお、この試料の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する(表2下の警告参照)。

試料の炭素含有率は、No. 1を除く11点がすべて50%を超える適正な値であった。No. 1は土に含まれる微細な炭化物を集めて試料としたが、土を完全に除去できなかったことが観察されている。炭素含有率は24%という低い値で、測定された炭素の由来に注意を要する。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon* 51(1): 337-360.
Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0.50000 years cal BP. *Radiocarbon* 55(4). 1869-1887.
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data. *Radiocarbon* 19(3), 355-363.

表1 放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正値)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態 区分	地層 区分	$\delta^{13}\text{C} (\text{‰})$ (AMS)	#7110]	
						$\delta^{13}\text{C}$ 補正値 Libby Age (yrBP)	pMC (%)
JAAA-142808	No.1	調査区3・柱穴(SP) 252	埋土	炭化物	-25.44 ± 0.56	1020 ± 20	88.11 ± 0.36
JAAA-142809	No.2	調査区4・柱穴(SP) 12	浮土	炭化物	-27.01 ± 0.59	60 ± 20	97.97 ± 0.29
JAAA-142860	No.3	調査区4・柱穴(SP) 298	埋土	炭化物	-27.77 ± 0.68	940 ± 20	88.07 ± 0.26
JAAA-142861	No.4	調査区30・1号井II段	埋土	炭化物	-26.75 ± 0.34	960 ± 20	88.76 ± 0.27
JAAA-142862	No.5	調査区20・8号井I段	埋土	炭化物	-25.42 ± 0.63	1040 ± 30	87.89 ± 0.28
JAAA-142863	No.6	調査区24・2号井II段	埋土	炭化物	-26.59 ± 0.63	890 ± 20	89.47 ± 0.27
JAAA-142864	No.7	調査区26・17号井I段	埋土	炭化物	-29.46 ± 0.32	910 ± 20	89.27 ± 0.27
JAAA-142865	No.8	調査区26・17号井II段	埋土	炭化物	-27.17 ± 0.60	1070 ± 20	87.51 ± 0.26
JAAA-142866	No.9	調査区26・22号井I段	埋土	炭化物	-27.04 ± 0.68	1040 ± 20	87.83 ± 0.26
JAAA-142867	No.10	調査区26・32号井II段	埋土	炭化物	-26.04 ± 0.36	1000 ± 20	88.28 ± 0.26
JAAA-142868	No.11	調査区27・50号井I段	埋土	炭化物	-25.89 ± 0.51	950 ± 30	89.82 ± 0.28
JAAA-142869	No.12	18号井II段	埋土	炭化物	-25.92 ± 0.36	1040 ± 30	87.85 ± 0.27

表2 放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正値、暈年較正用¹⁴C年代、較正年代)(1)

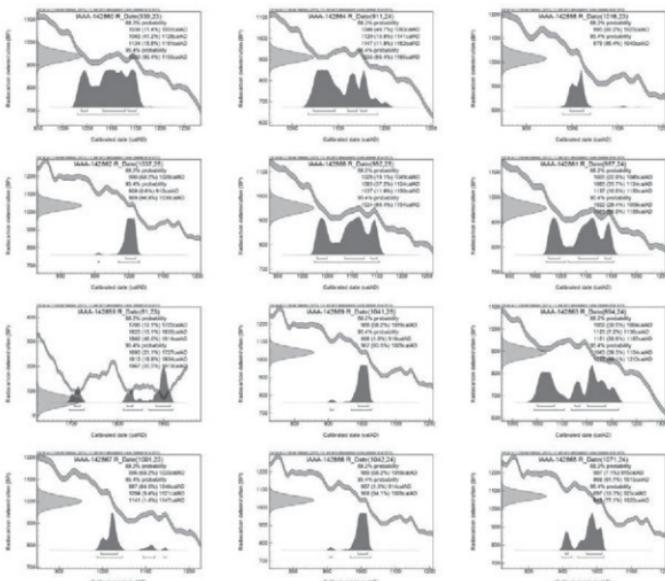
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし Age (yrBP)	pMC (%)	暈年較正用 (yrBP)	1 σ 優先年代範囲		2 σ 優先年代範囲	
				1 σ 優先年代範囲	2 σ 優先年代範囲	1 σ 優先年代範囲	2 σ 優先年代範囲
JAAA-142808	1020 ± 20	88.03 ± 0.24	1016 ± 23	990calAD - 1025calAD (68.2%)	997calAD - 1046calAD (95.4%)	990 ± 30	88.82 ± 0.28

IAAA-142859	110 ± 20	98.65 ± 0.27	61 ± 23	1700calAD - 1720calAD (12.7%) 1820calAD - 1850calAD (6.1%) 1880calAD - 1910calAD (46.0%) 1030calAD - 1050calAD (11.4%) 1080calAD - 1120calAD (41.2%) 1130calAD - 1150calAD (20.0%) 1080calAD - 1120calAD (22.0%) 1080calAD - 1120calAD (35.7%) 1130calAD - 1150calAD (60.9%)	1600calAD - 1720calAD (11.1%) 1810calAD - 1850calAD (8.9%) 1860calAD - 1910calAD (55.9%) 1030calAD - 1150calAD (65.4%) 1030calAD - 1150calAD (65.4%)
IAAA-142860	980 ± 20	88.66 ± 0.23	939 ± 23	903 ± 23	1030calAD - 1150calAD (65.4%)
IAAA-142861	990 ± 20	88.44 ± 0.26	957 ± 24	1080calAD - 1120calAD (41.2%) 1130calAD - 1150calAD (20.0%) 1080calAD - 1120calAD (22.0%) 1080calAD - 1120calAD (35.7%) 1130calAD - 1150calAD (60.9%)	1020calAD - 1050calAD (29.4%) 1060calAD - 1150calAD (66.9%) 900calAD - 9120calAD (0.6%) 960calAD - 1030calAD (60.9%)
IAAA-142862	1040 ± 20	87.81 ± 0.26	1037 ± 25	9900calAD - 10200calAD (68.2%) 10900calAD - 11000calAD (0.8%) 11200calAD - 11300calAD (2.2%) 11500calAD - 11800calAD (0.0%)	1040calAD - 1100calAD (28.3%) 1110calAD - 1210calAD (61.1%) 1030calAD - 1180calAD (65.4%)
IAAA-142863	920 ± 20	89.17 ± 0.24	894 ± 24	1010calAD - 1050calAD (40.7%) 1120calAD - 1140calAD (15.8%) 1140calAD - 1160calAD (11.8%)	900calAD - 9120calAD (0.6%) 960calAD - 1030calAD (60.9%)
IAAA-142864	990 ± 20	88.66 ± 0.25	911 ± 24		1030calAD - 1180calAD (65.4%)

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2) 参照値

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし Age (yrBP) gMC (%)		帶年較正 (yrBP)	1 σ 年代測定		2 σ 年代範囲
	Age (yrBP)	gMC (%)		1 σ 年代測定	2 σ 年代範囲	
IAAA-142865	1110 ± 20	87.12 ± 0.24	1071 ± 24	9070calAD - 9150calAD (7.1%) 9600calAD - 10100calAD (61.1%)	8950calAD - 9250calAD (38.3%) 9400calAD - 10200calAD (67.1%)	
IAAA-142866	1080 ± 20	87.46 ± 0.23	1042 ± 24	9800calAD - 10180calAD (66.2%)	9070calAD - 9140calAD (1.2%) 9600calAD - 10200calAD (94.1%)	
IAAA-142867	1030 ± 20	88.09 ± 0.25	1001 ± 23	9900calAD - 10300calAD (68.2%)	9870calAD - 10400calAD (8.5%) 10940calAD - 11400calAD (8.4%) 11400calAD - 11450calAD (1.4%)	
IAAA-142868	970 ± 20	88.65 ± 0.26	952 ± 25	10200calAD - 10900calAD (19.1%) 10800calAD - 11200calAD (37.2%) 11700calAD - 11900calAD (11.9%)	10240calAD - 11500calAD (65.4%)	
IAAA-142869	1020 ± 20	88.03 ± 0.26	1041 ± 25	9800calAD - 10100calAD (68.2%)	9060calAD - 9160calAD (1.9%) 9670calAD - 10200calAD (95.5%)	

* Warning! Date probably out of range (この警告は較正プログラム OxCalが発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)





VII 総括（調査のまとめ）

野外調査で得られた成果と分析鑑定によって明らかになったこと、周辺遺跡の調査成果などを合わせて現段階で類推される遺跡の内容について以下に列記して調査のまとめに代えたい。

伽羅之御所跡第22次調査

・今回検出された堀跡は1次調査で見つかった堀跡と同一の遺構であり、直線的に繋がるようである。これまでに伽羅之御所跡で確認されている土塁、道路跡、そして堀跡を地形図に入れ、未調査部分を推定してみると次ページ下図のようになる。

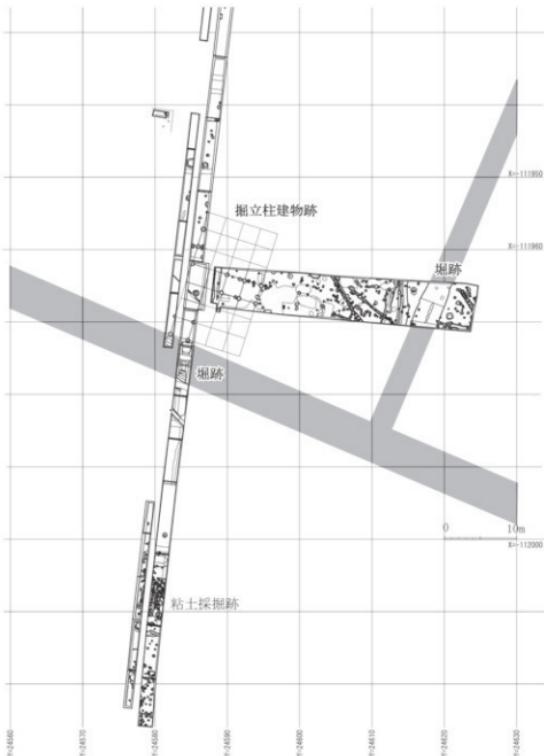
・横列の多くの堀跡とは時期が異なると考えている。その多くは堀跡よりも古い段階のものであろう。
・掘立柱建物跡の西側については次年度に調査が予定されており、その成果も含めて規模、形状、時期、堀跡との関係等を明らかにしたい。

・堀西側では道路側溝があるのではないかと考えていたが検出されなかつた。

伽羅之御所跡第23次調査

・鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」によると無量光院東門付近に三代秀衡の常居所「伽羅御所」があり、四代泰衡が引き継いだとされている。しかし伽羅御所内部的具体的な状況についての記載は無く、どのような構造なのかは明らかではない。

・調査区は遺跡として登録されている無量光院跡と同じく遺跡登録上の伽羅之御所跡とが隣接する場所にあ



第38図 推定される堀跡の方向

たる。

- ・今回検出された堀跡は西北西・東南東方向に延びており、1・23次調査で見つかった堀跡と直角に繋がるようである（1次調査の報告書では大溝跡と記載されているもの）。
- ・無量光院南辺と伽羅御所跡南辺はこの1本の堀跡が使われていた可能性が高まった。
- ・当事業に伴う発掘調査で得られた成果からこれまで不明瞭であった伽羅之御所跡と無量光院跡の範囲は第39図のようになると推定した。
- ・掘立柱建物跡は堀が掘られる前段階の施設である可能性が高い。本遺跡ではこれまでにも12世紀後半より古い遺構が幾つか確認されており、伽羅御所造営以前から利用されていた場所であった。
- ・この地では、12世紀の道路跡も想定されていた。道路側溝や石敷路盤は検出されなかったが堀南側には不自然に遺構のない所があった。
- ・堀の南側からも遺構・遺物が見つかり、堀の北側よりも多く分布しているところもある。

伽羅之御所跡現況の補足

- ・本遺跡は北が柳之御所跡（猫間が淵）、西が無量光院跡、南は鈴沢の池跡に囲まれている。東側は北上川集積地に面しているため、本遺跡の東端部は段丘崖のようになっている。遺跡範囲内の多くは住宅になっており残りは耕作地である。
- ・遺跡北東端部には北側の猫間が淵へ向かい小岬状の張り出した地形が残っている。この張り出した地形のその先からは柳之御所跡内部へと通じる堀跡に架かる橋跡が見つかり、更にその先の柳之御所跡内部に入ったところでは南北に延びる道路側溝も見つかっている。



第39図 伽羅御所跡と無量光院跡



・前述した張り出し地形のすぐ西側には土塁が残っている。土塁は猫間が淵南岸に沿うように15m程残っているが、書では「伽羅御所」北辺全てに構築されていたと推測される。

・遺跡北側には県道平泉東山線がある。この県道部の地形は猫間が淵に向かって西から東へと低くなつておる、小規模な沢が入っていた可能性がある。この低くなる地形をもつて「伽羅御所」北辺とするのが最良と考える。

「伽羅御所跡」の範囲について

22次調査では「伽羅御所」東辺にある堀跡が、23次調査では南辺にある堀跡が検出されている。東辺は段丘崖、北辺は土塁と県道部の沢地形から見当がついた。これらのことから「伽羅御所」の範囲は第39・40図のようになると想定される。これにより、22次調査区の一部と23次調査区の北半部は「無量光院」であった可能性が高まつた。また23次調査区南半部も「伽羅御所」の外側にあたることが分かる。



第40図 平泉地形図（一部古地形を復元）



写真図版1 平泉（写真上が北）

- 59 -



平泉と衣川川（北から）



22次調査区（西から）



伽羅之御所跡近景 電柱の右に土壘

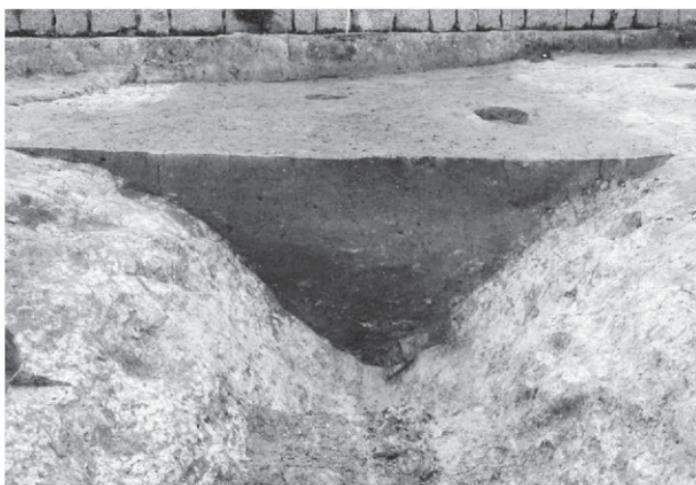


伽羅之御所跡近景 杉木立の下に土壘

写真図版2 平泉遠景、遺跡近景



1号墳跡検出（西から）



1号墳跡断面（南から）

写真図版3 1号墳跡検出・断面

- 61 -



1号堀跡平面（南から）



上：1号堀跡平面（南から）右：一号堀跡平面（西から）



写真図版4 1号堀跡平面

- 62 -



1号掘立柱建物跡平面（南西から）



1号土坑断面（南西から）



1号土坑断面（西から）



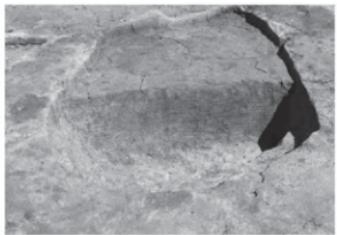
2号土坑平断面（北から）



3号土坑平断面（南から）

写真図版5 掘立柱建物跡、土坑

- 63 -



4号土坑断面（西から）



4号土坑平面（南から）



1号柵列跡平面（北から）



1号柵列跡平面（南から）



1号柵列跡平面（北東から）



1号柵列跡断面（南東から）

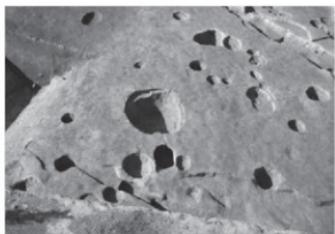
写真図版 6 土坑、柵列跡



1号溝跡断面（南から）



1・3・4号溝跡断面（南から）



2号溝跡平面（南から）



2号溝跡断面（西から）



5号溝跡断面（東から）



2号溝跡断面（西から）

写真図版7 溝跡



5号溝跡平面（東から）



6号溝跡断面A-A'（東から）



6号溝跡平面（南東から）



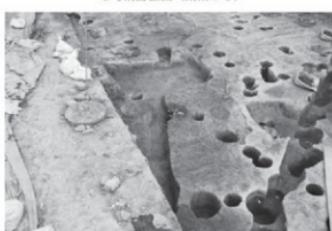
6号溝跡断面B-B'（東から）



8号溝跡断面（南東から）



2号柵列断面（南西から）



8号溝跡平面（南から）



2号柵列断面（南西から）

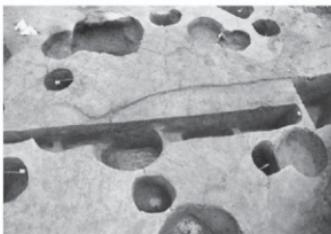
写真図版 8 溝跡、柵列跡



2号橋列平面（南から）



3号橋列断面A-A'（南東から）



3号橋列断面B-B'（南から）



上：3号橋列平面（南から）

右：発掘調査状況



写真図版9 橋列跡



上：調査区東側平面（西から） 下：調査区西側平面（東から）



写真図版10 調査区全景



1号堀跡出土遺物



1号堀跡出土遺物



現地公開



現地公開



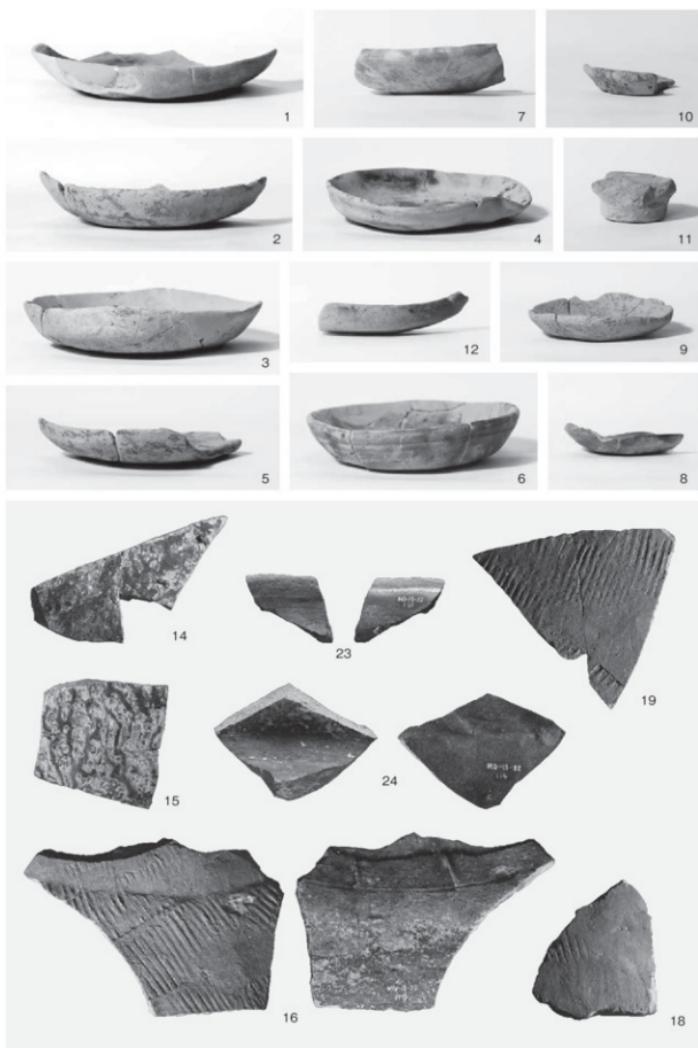
砂で保護しつつ堀跡を埋め戻す



1号堀跡精査状況

写真図版11 出土遺物、現地公開他

- 69 -



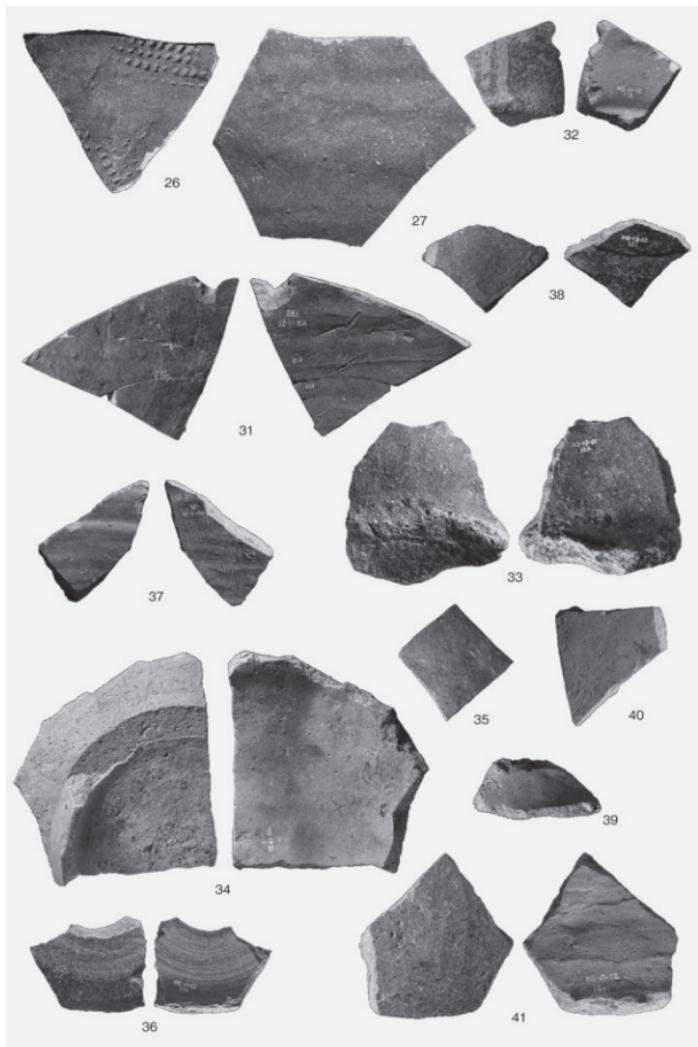
写真図版12 出土遺物 1

- 70 -



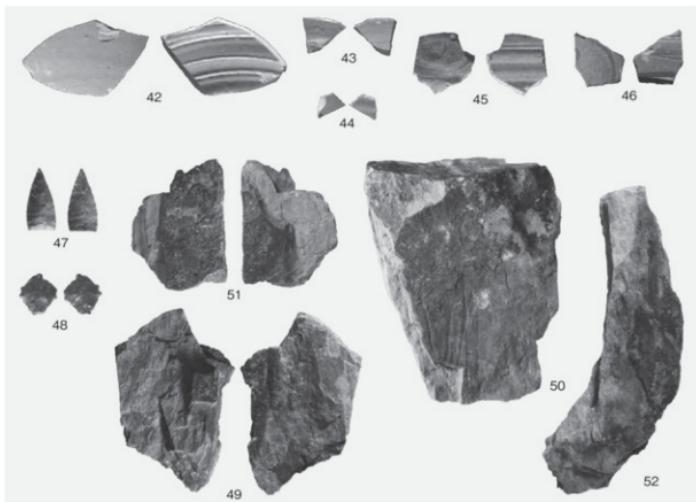
写真図版13 出土遺物2

- 71 -



写真図版14 出土遺物3

- 72 -



23次調査区を北端から



23次調査区の中央部（南から）



10・11号溝断面（南から）



2号堀跡出（東から）



10・11号溝路平面（南から）



2号堀跡平面図（東から）

写真図版16 調査区1、2号堀跡

- 74 -



2号堀跡平面（北から）



2号堀跡検出（北から）



調査区2全景（北から）

写真図版17 2号堀跡、調査区2

- 75 -



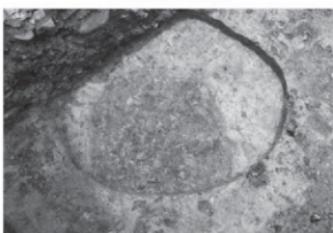
P249平面（北から）



1号溝跡平面（南から）



1号溝跡断面（南から）



P254平面（北西から）



調査区3全景（北から）



P260平面（南から）



P260断面（南から）

写真図版18 調査区2・3



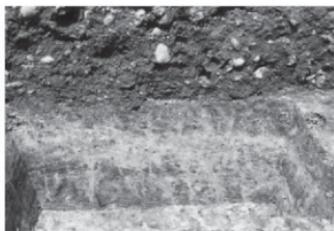
調査区 4 全景（北東から）



調査区 6 全景（北から）



調査区 5 全景（北東から）



調査区 7 基本層序（東から）



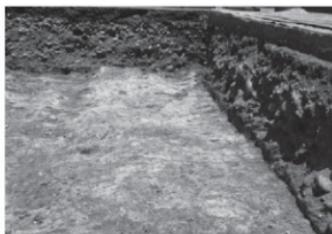
調査区 7 全景（南から）



調査区 8 全景（北から）

写真図版19 調査区 4～8

- 77 -



12号溝跡平面（南から）



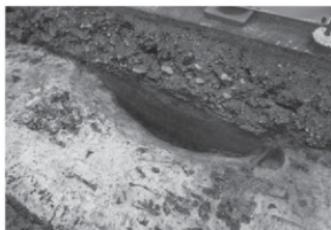
12号溝跡断面（南西から）



調査区9全景（北から）



調査区10全景（南から）

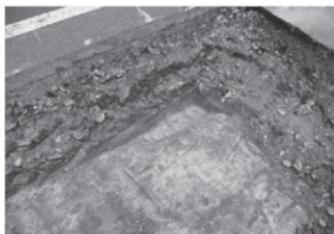


1号井戸跡平面（北東から）



1号井戸跡断面（東から）

写真図版20 調査区9・10ほか



6号土坑平面（南東から）



調査区11全景（南から）



調査区12全景（北から）



調査区13全景（北から）



7号土坑平面（北西から）

写真図版21 調査区11～13ほか



調査区14全景（北から）



7号土坑断面（西から）



調査区15全景（北から）



調査区17全景（北から）



調査区16全景（北から）

写真図版22 調査区14~17



調査区18 2号堀跡平面（南西から）



調査区18 2号堀跡検出（北西から）



調査区18 2号堀跡断面（東から）



調査区18 2号堀跡平面（南西から）

写真図版23 調査区18 2号堀跡



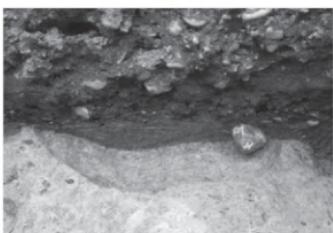
調査区19全景（南から）



調査区20全景（南から）



8号土坑断面（西から）



10号土坑断面（西から）



9号土坑断面（西から）



10号土坑平面（北西から）

写真図版24 調査区19・20ほか



P301、11号土坑断面（西から）



P301、10・11号土坑断面（北西から）



調査区21全景（南から）



14号溝跡断面（西から）



SX01断面（西から）



14号溝跡平面（北西から）



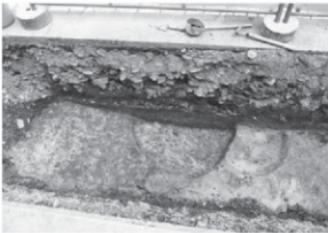
SX01平面（北西から）

写真図版25 調査区21・22ほか

- 83 -



調査区 22 全景（南から）



12～15号土坑断面（西から）



調査区 23 全景（南から）



12～15号土坑平面（南西から）



12号土坑出土遺物（南西から）



調査区24全景（南東から）



15号溝断面（東から）



調査区24全景（南東から）

写真図版26 調査区22～24ほか



上：2号堀跡断面（東から） 下：2号堀跡平面（北から）



写真図版27 調査区24、2号堀跡



調査区 24、2号塙跡ほか全景（南東から）



2号塙跡平面（東から）



調査区25全景（南から）

写真図版28 調査区24・25

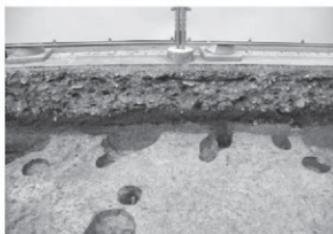
- 86 -



粘土探査跡断面南端部（南から）



粘土探査跡断面南一中央部（南から）



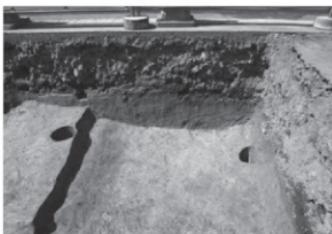
粘土探査跡断面中央一北部（南から）



粘土探査跡断面北端部（南から）



調査区 26 粘土探査跡検出（南から）



16号土坑断面（東から）



16号土坑平面（北東から）

写真図版29 調査区25・26、粘土探査跡



17号土坑断面（南から）



17号土坑平面（北から）



18号土坑断面（南東から）



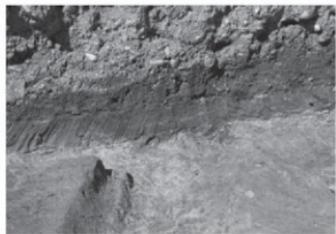
18号土坑平面（東から）



19号土坑断面（南から）



20号土坑平面（南東から）



16号溝跡断面（南東から）



16号溝跡平面（東から）

写真図版30 調査区26、土坑類ほか



調査区26、粘土探掘跡平面（北東から）



調査区26全景（南から）



49号土坑、整地層平面（東から）



49号土坑、整地層断面（東から）

写真図版31 調査区26、粘土探掘跡



50号土坑平面（南から）



50号土坑断面（西から）



調査区27全景（南から）



調査区28全景（南から）



調査区28整地層断面（東から）



調査区28南半部（東から）

写真図版32 調査区27・28



調査区29全景（南から）



調査区30全景（南から）



調査区30全景（東から）



調査区31全景（北から）



調査区30全景（北から）

写真図版33 調査区29～31

- 91 -



18号溝跡平面（西から）



51～53号土坑断面（南から）



右：調査区32全景、51～53号土坑平面（東から）



51～53号土坑断面（南西から）



調査区33全景（南東から）



2号堀跡 出土遺物



11号土坑 出土遺物2

写真図版34 調査区32・33



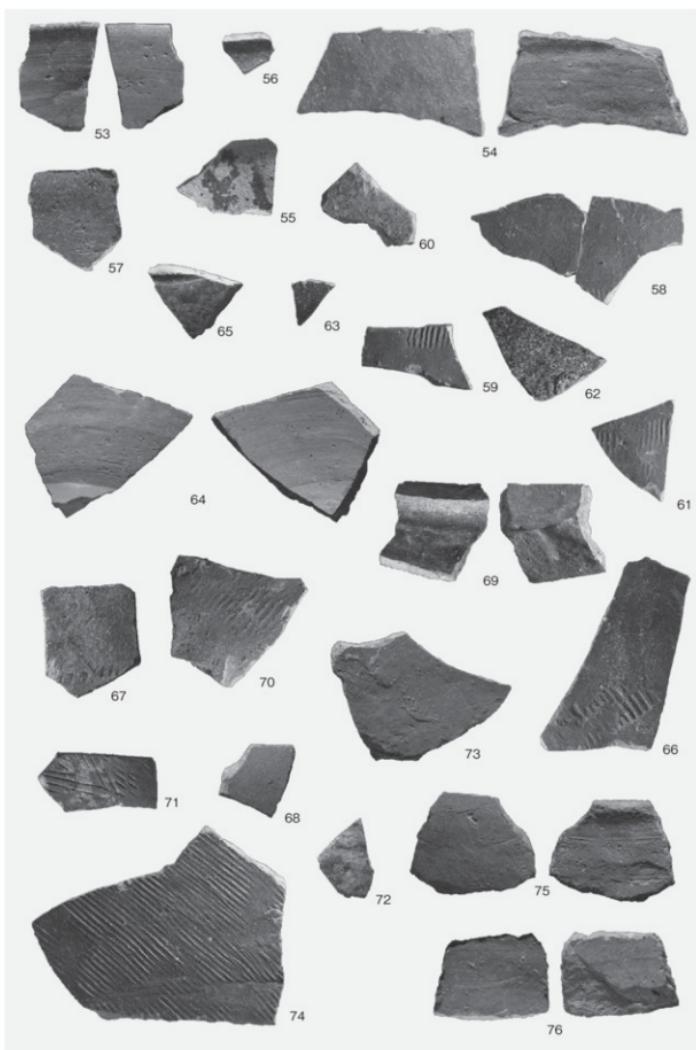
写真図版35 出土遺物①

- 93 -



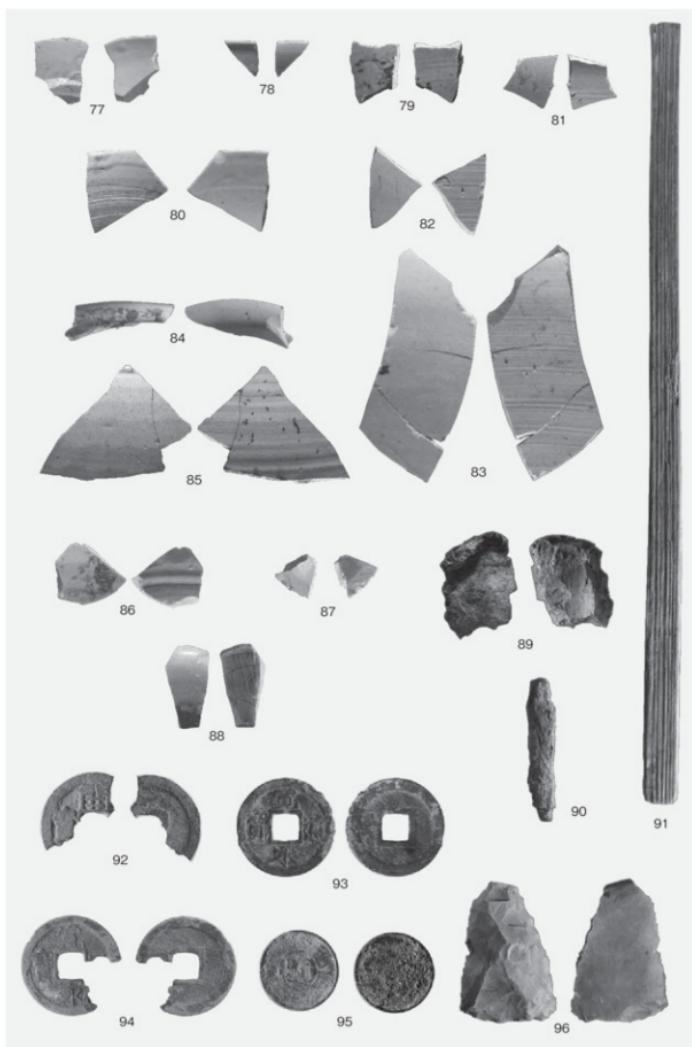
写真図版36 出土遺物②

- 94 -



写真図版37 出土遺物③

- 95 -



写真図版38 出土遺物④

- 96 -



報告書抄録

ふりがな	きやらのごしょあとだいにじゅうに・にじゅうさんじはくつちょうさほうこくしょ					
書名	伽羅之御所跡第22・23次発掘調査報告書					
副書名	一般県道平泉停車場中尊寺線共同溝整備事業間連遺跡発掘調査					
巻次						
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第648集					
編著者名	杉沢 昭太郎					
編集機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター					
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL019638-9001					
発行年月日	2016年3月11日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²
伽羅之御所跡 第22次調査	市町村 平泉町 御所跡内ほか	03382	NE76-1029	38度 59分 30秒	141度 7分 2秒 ~ 2013.06.05	280 m ² 一般県道平泉停 車場中尊寺線電 線共同溝整備事 業
伽羅之御所跡 第23次調査	岩手県西磐井郡 平泉町平泉字伽 羅寺地内ほか 立地内ほか	03382	NE76-1029	38度 59分 27秒	141度 7分 1秒 ~ 2014.10.31	2240 m ²
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
伽羅之御所跡 第22次調査	居館 無量光院跡 に隣接	中世初頭	堀跡 1 掘立柱建物跡 1 土坑 4 溝跡・横列跡 7	陶磁器 かわらけ 木製品 石製品	堀跡は伽羅御所と無量光院 とを区画していた可能性が 高い。掘立柱建物跡は柱柱 建物。	
伽羅之御所跡 第23次調査	居館 無量光院跡 に隣接	中世初頭	堀跡 1 井戸跡 2 粘土探査跡 1 溝跡	陶磁器 かわらけ 羽口	堀跡は伽羅御所と無量光院 の南辺を区画する可能性が 高い。堀跡南側には粘土探 査跡があった。	
要約	22・23次で見つかった2条の堀跡によって「伽羅御所」と「無量光院」の境界及び其々の南辺が明らかとなった点が最大の成果である。これにより「伽羅御所」「無量光院」の範囲を明らかにする上で重要な考古学的成果を提示することができた。掘立柱建物跡は南北棟の柱柱建物と推定され、無量光院造営以前に格の高い建物が建っている場であったことがわかった。無量光院の「東門」に隣接するような道跡は見つかっていない。					



岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第648集
伽羅之御所跡第22・23次発掘調査報告書
一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成28年2月22日

発 行 平成28年3月11日

編 集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11 地割185番地
電話 (019) 638-9001

発 行 岩手県県南広域振興局土木部
〒021-8503 岩手県一関市竹山町7-5
電話 (0191) 26-1418
(公財) 岩手県文化振興事業団
〒021-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235

印 刷 第一印刷有限会社
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ四丁目6-40
電話 (019) 646-6001

©(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2016